

水門の開閉装置の変化とデザイン



■現在の安積疏水の十六橋水門(開閉装置はストーニーゲート、出典26-1)

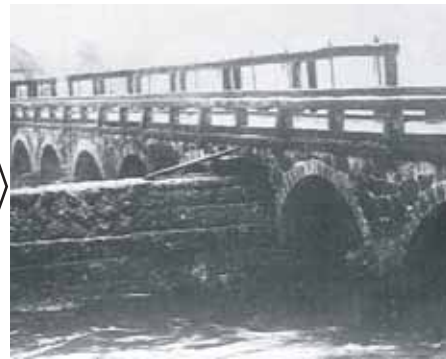


■現在の石井閘門(開閉装置はマイターゲート、出典26-2)



■明治15年頃の十六橋水門の写真(出典26-3)

角落であるため堰の上部に開閉装置がなく、橋として利用されている。



■明治28年頃の十六橋水門の写真(出典26-4)

手動巻き上げ式となり、門扉上部に巻き上げ装置が設けられた。



■大正3年頃の十六橋水門の写真(出典26-5)

門扉上部に電気モーターが設置された。それにともない橋梁機能は上流側に分離して築造。なお、巻き上げ機はその後改良。



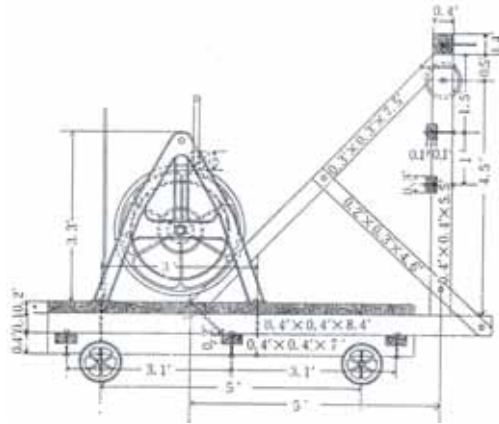
■建設当時の石井閘門(出典26-6)

建設当時(明治13年)は、門扉上部に管理橋がなく、高さがある船舶も通航可能であった。

【手動からモーターへ】

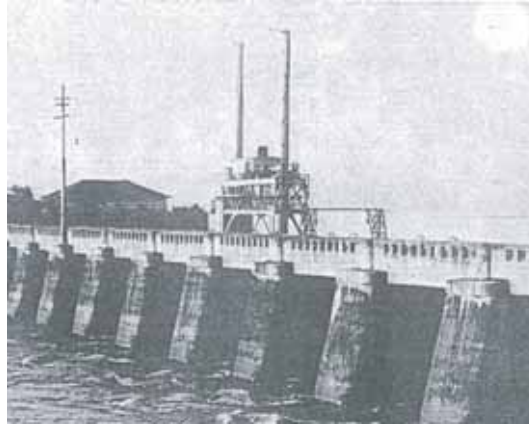
水門などの門扉には上下に引き上げるタイプのものや観音開きのように開くタイプのものなど様々なタイプがある。また、これらの門扉を動かす開閉装置については、手動から電動あるいは油圧式と様々なタイプのものがある。これらは、その構造物が持つ機能に合わせて門扉のタイプを選定するとともに、その時代の技術力によって利用される開閉装置のタイプが異なってくる。そのため、同じ門扉や同じ機能を持つ門扉であっても、時代によってその姿を変えている。

現在、多くの開閉装置に利用されている電気モーターは、明治20年代に海外から持ち込まれて土木建築物に利用されたのが始まりと言われる。この電気モーターが本格的に利用されるようになるのは、電気モーターが国産化(明治28年頃)され、相次いで電気モーターを製造する会社が設立された明治時代後半から大正時代にかけてであると言われている。



■設計当初の大河津分水路・洗堰の開閉装置(手巻き、出典26-7)

設計当時(明治45年頃)に考えていた手巻きの巻き上げ機。堰の上にレールを敷き、ゲートを手巻きで引き上げる。



■大正期の大河津分水路・洗堰の姿(移動型電動巻き上げ機、出典26-8)

電気巻き上げ機は、堰の上にあるレールの上を移動し、一門ずつゲートを引き上げて移動する。



■戦後に各門が電動巻き上げ機を持つものとなった大河津分水路・洗堰(出典26-9)

戦後、各ゲート上部にモーターを設置し、各ゲートが引き上げられるようになった。現在、この堰は登録有形文化財として保存されている。

【信濃川・大河津分水路・洗堰に見るデザインの違い】

門扉を開閉させるために利用される動力源は、人力からモーターへ、あるいは油圧式へと変わってきた。そのため、堰の景観もその動力源にあわせて変化してきている。さらに、その違いは、堰上部における動力源を収納する上屋の形状が異なり、同じ堰でも異なったプロポーシオンとなっている。

大河津分水路の洗堰は、信濃川の分水路整備に併せて設けられたもので、明治45年から大正11年にかけて工事が行われた。設計当時にはまだ、モーターが普及しておらず、堰の門扉を人力の巻き上げ機で一門ずつ引き上げるものであった。しかし、工事中にモーターが普及し、完成時にはモーターを載せた電気巻き上げ機を堰の上のレールに乗せ、一門ずつ引き上げる方式になった。

さらに、戦後、モーターや電力が充分に利用できるようになり、各門の上部にモーターを設置し、1台の電気巻き上げ機が各門を引き上げていく方法では無くなった。なお、門扉も2段方式の中間放流方式(昭和34年)、1枚のローラゲートを設置した下端放流方式(昭和59年)と時代とともに変化している。

このように、門扉を引き上げる動力源が異なることにより、堰の景観が変化してきている。なお、洗堰は平成14年に新築され、現在では油圧式で稼働する門扉となっている。人力よりも大きな力を引き出すことから門扉も大型化し1門の大きさは幅12.0m・高さ8.2m(当初の門扉は4.15m×2.05m)となっている。



■平成に改築された大河津分水路・洗堰の油圧シリンダー式の水門(出典26-10)

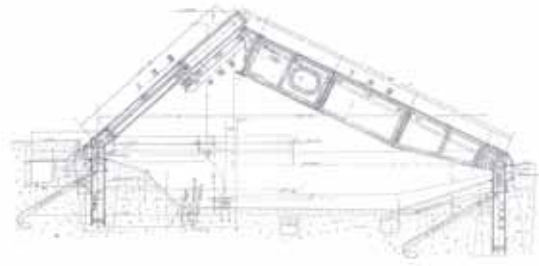
平成14年に新設された洗堰は、油圧式の開閉装置でつくられている。

【信濃川・大河津分水路

・自在堰に見るデザインの違い】

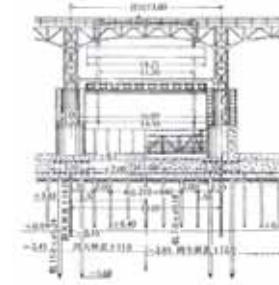
洗堰と同様に大河津分水路に設けられた自在堰は、大正5年から大正11年にかけて設置されたもので、当時でも珍しい8門のベアトラップ型の可動堰としてつくられた。この堰は、扉体に送気と給水をおこなって扉を上下に動かすもので、当時として堰を素速く動かすために用いられた技術である。

しかし、完成後にこの堰が倒壊し、その後に設けられた堰は、モーターを門の上部に設置した形式の門となっている。



■大河津分水路自在堰・断面図(出典26-11)

設計当時では、短時間に開閉できるベアトラップ型(水圧・圧搾式)を採用し整備した。



■倒壊後に再整備し昭和6年に完成したストーンゲート(モーター)の立面図(出典26-12)



倒壊前の自在堰
(出典26-13)



現在の自在堰
(出典26-14)

【荒川・岩淵水門に見るデザインの違い】

東京の荒川放水路では、大正13年(1924)に設置された水門の写真をみると、上部に開門部分の門扉が突き出していない。当時は、この開門部分の門扉は、2枚に分けて堰上のレールを動く機関車により袖壁に横引きで格納するタイプのものであった。

このように、門を横に格納するため上部に構造物がなく、デザイン的には堤防高と水

門高が一致し、一体感のある景観を形成するものとなっていた。しかし、地盤沈下が進み、門扉を大きくすることから、昭和35年に引き上げ式の門扉になり、堰のプロポーシオンは大きく変化した。



■大正13年時の旧岩淵水門(出典26-15)

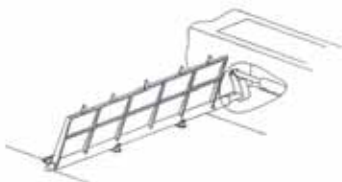
開門部分が横引き・写真左側の側壁に門扉を機関車で引き込む(写真は下流側右岸より望む)。



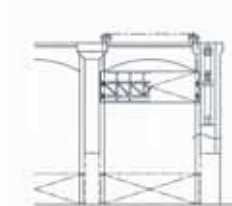
■現在の旧岩淵水門(出典26-16)

開門部分は引き上げ式(写真は上流側右岸より望む)。

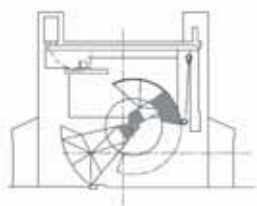
【多種多様な門扉の開閉装置】



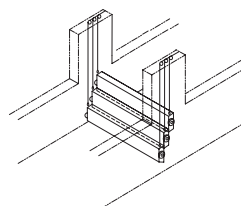
■大井手堰
(平成17年、写真:出典26-17、図:出典26-18)
油圧シリンダを利用した起伏ゲート



■埴科頭首工
(昭和34年、写真:出典26-19、図:出典26-20)
油圧シリンダワイヤロープ式ゲート。堰柱の中に油圧シリンダを埋め込んでいるため上部に開閉装置がない。



■堂島川可動堰
(昭和4年、写真:出典26-21、図:出典26-22)
ラジアルゲート(テンターゲート)橋版の下に門扉が入り、上部に門が持ち上がらない。



■瀬田川洗堰・バイパスゲート
(昭和62年、写真:出典26-23、図:出典26-24)
スライド3段シェル構造ローラーゲートを採用し、細かな水量調整を可能にするとともに、全開時の扉高をおさえている。

護岸の端部デザイン



■岡山県・旭川・勝山船着場(出典27-1)

河川構造物の中で多く設けられる構造物の1つに河川護岸がある。護岸は河岸浸食を防止するための構造物であるが、川の流れと周囲景観とを結びつける重要な景観の要素も担っている。

そのため、川の景観をデザインする場合には、この護岸構造物をいかに周囲の風景(川の流れや背後の町並み等)と馴染ませていくか、あるいは、なるべく護岸を設けなくてすむ河道設計を検討することが、美しい景観をつくり出すポイントの1つとなる。この点、護岸構造物のデザインについては様々な工夫がなされ、周囲の風景に馴染む事例が見られる。

これらの工夫に共通する点は、川の景観と周囲の景観とを相互に結びつける護岸部の端部(エッジ)を丁寧に仕上げ、風景を見ている者に対して、護岸構造物が景観を分断するのではなく、一連のつながりある景観として感じさせている点にある。

これは、端部を丁寧に仕上げることによって、景観の連続性を確保する点にある。



■切天端の場合、天端工がコンクリートのままであると目立ち、周囲の景観に馴染まない。(出典27-2)



■天端工のコンクリート部分を若干低く施工し、その上部に土を入れ植栽することによって天端のコンクリートを隠している。(出典27-3)



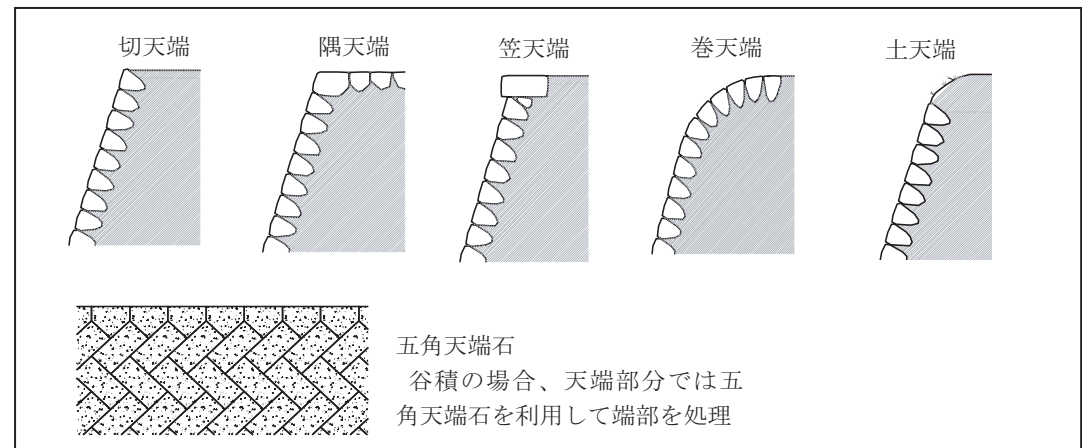
■天端を巻天端として天端コンクリートが見えないようにしている。さらに、その上に植物が繁茂し景観的に馴染んでいる。(出典27-4)

【天端工】

護岸の天端部分は、直線的なエッジであるため、この部分の処理が直線的に見えると川と周囲との景観を分断するものになる。

そこで、この天端を整えるデザインで対応することで、景観(川と周囲)を分断するのではなく、一連のつながりある景観と感じられるようになる。

この天端処理には、主に下図のような5種類の対応方法がある。



五角天端石
谷積の場合、天端部分では五角天端石を利用して端部を処理

■天端処理の種類(出典27-5)



■京都府・鴨川(出典27-6)
護岸同士の取り付けが丁寧。



■広島県・太田川(出典27-7)
階段との取り付け、隅角の処理が丁寧。



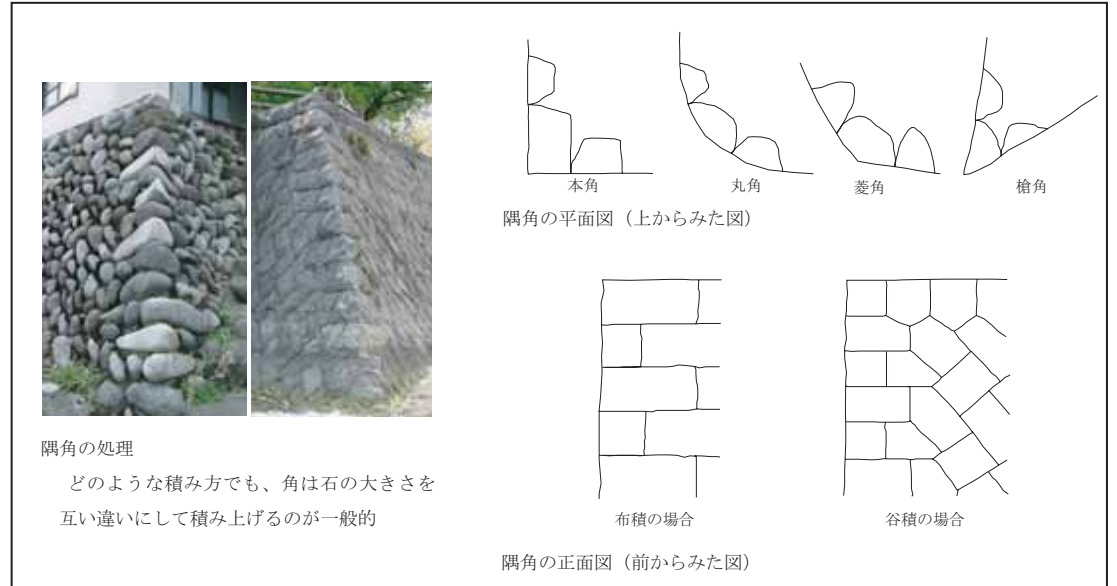
■秋田県・横手川(出典27-8)
階段との取り付けを巻天端として処理。

すみかど
【隅角】

護岸部には、護岸が他の構造物等に取り付く部分に端部が発生する。

この端部の処理が丁寧にデザイン・施工されているものは、取り付け部に違和感を感じることがなく、全体の景観が一連のつながりある風景として感じることができる。

なお、コンクリートブロックなどの構造物では、この端部処理を現場打ちコンクリートで処理するため、連続性を感じにくく、違和感をもってしまう。



隅角の処理
どのような積み方でも、角は石の大きさを互い違いにして積み上げるのが一般的

■隅角の処理方法(出典27-11)



■大分県・庄手川(出典27-9)
護岸(家の基礎部)の端部処理が美しいため、端部が多く見える雁行形状になっていても違和感がなく、護岸にアクセントを与え、落ち着いた景観を生みだしている。なお、水際部の構造物は、昭和40年代に根固として設けられたものである。



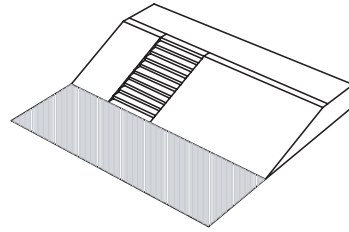
■広島県・太田川(出典27-10)
護岸天端、護岸端部にも丁寧に作りあげているため、構造物に連続性が感じられ、護岸が川と背後の市街地を分断する構造物となっていない。特に、水際部の玉石構造と、天端部の雑割張石構造との境にわずかな段差(5cm)をあえて設け、エッジを際立たせることにより素材の加工が異なっていることに違和感を感じさせず、景観全体に縮まり与えている。



(出典27-12)



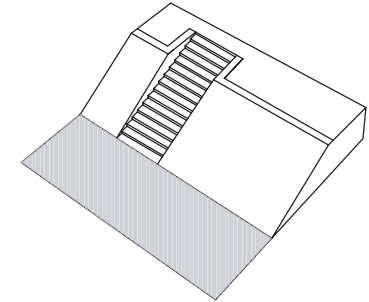
(出典27-13)



(出典27-14)



(出典27-24)



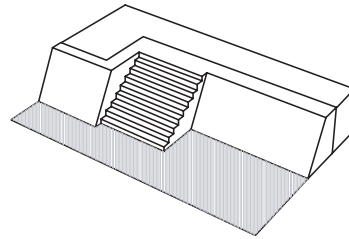
(出典27-25)



(出典27-15)



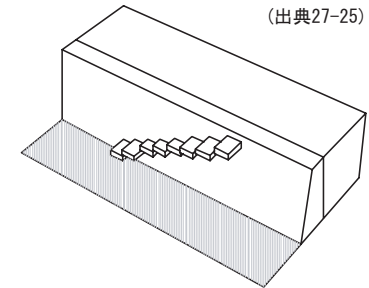
(出典27-16)



(出典27-17)



(出典27-26)



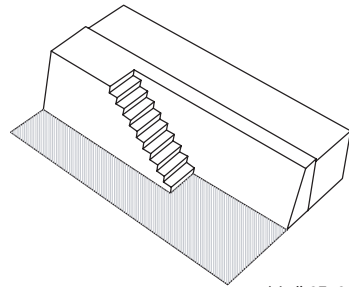
(出典27-27)



(出典27-18)



(出典27-19)



(出典27-20)

【階段】

護岸部に設けられる階段は、多くの端部処理を必要とする構造物である。そのため、階段を設けることは、端部処理が必要な空間を多くつくることであり、安易に階段を設けることは、デザイン上難しくデザイナーとしての技量が問われる構造物である。

一方、限られた護岸形状や地形条件の中で階段を設置するため、階段の蹴上げ高や踏む面の大きさに制限が生まれ、デザイン的にはおさまりの良い形になったとしても、実際に歩いて(登って)みると踏み面が小さく、転びそうになったりする階段が出来上がる可能性がある。

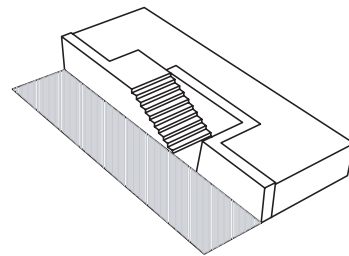
そこで、階段のデザインにも様々なタイプがあることを認識し、それぞれの河川の特性和周囲状況から、そのデザインを選択し、蹴上の高さを調整したり踊り場を設けるなど、ユニバーサルデザインにも対応できる工夫をすることが必要である。



(出典27-21)



(出典27-22)



(出典27-23)



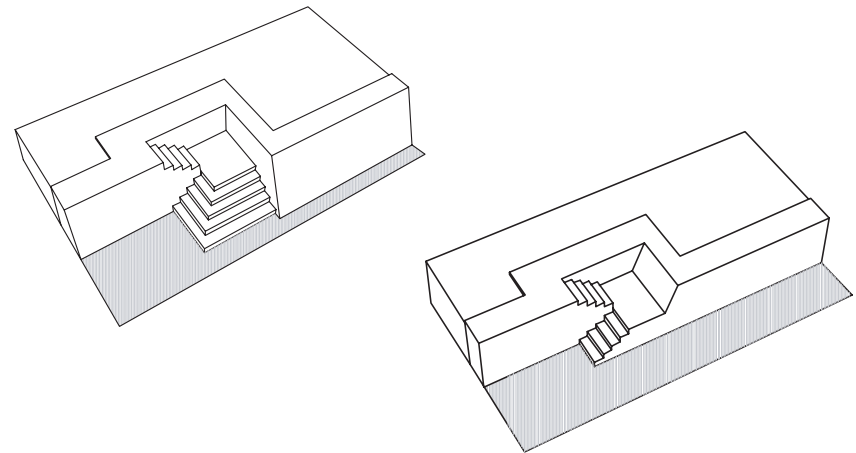
■広島県・太田川(出典27-28) 階段とベンチとの組合せが憩いの空間を生みだしている。



■秋田県・横手川(出典27-29) 数多くの端部処理によって階段が設けられている。



■鹿児島県・甲突川(出典27-30) 護岸部と階段部とのすり付けを曲線として処理している。



【憩える空間としての演出】

(出典27-31)

河岸に設けられる階段は、親水空間であり人々の憩いの場として活用されることが多い。そのため、階段としての歩行機能を備えるだけでなく、その場で憩える空間をつくるためにいくつかのデザイン要素を組み合わせられて整備されている。

伝統治水に学ぶしなやかなデザイン

我が国の近代の治水対策は、築堤や河道拡幅等の河川改修を進めることにより、流域に降った雨水を川に集めて、海まで早く安全に流すことを基本に行われてきた。しかし都市化による土地利用の激変や異常降雨の頻発などにより、このような河川改修のみによる対応では限界が生じている地域も見られるようになってきている。このような状況に対応するために、近年では、河川改修に加えて流域対策を導入し、治水対策のメニューの多様化により、地域や河川の特性に応じたより効果的な治水対策を実施する動きがみられる。

このような治水の考え方とそれに基づく洪水管理手法は、かつては我が国のいたるところに存在していたし、実は現在でも、そのような姿が各地に見られる。

これらの施設に共通するのは、洪水への対応を、川の中だけではなく、地域全体として対応していくという考え方である。このような考え方は、まさに流域と一体となった川のデザインを考える上で学ぶべき点が多い。

以下では、これらの考え方に基づく、河川デザインの事例とそこに込められた川との関係の考え方を紹介する。

【置 堤】

置堤は特殊堤防の一種である。大きく異なるのは、通常特殊堤防が洪水を溢れさせないために必要な高さまで壁として立ち上がるのに対し、置堤は橋の欄干のように枠だけが立ち上がる形となっていることである。

もちろん、枠だけでは、洪水の時には、枠の間から洪水が溢れてしまう。洪水のときには、この枠の間に畳を差し込み、洪水が溢れさせないようにして対応するのである。何故、このような特殊な形となったのか。そこに川との付き合い方の要点がある。

通常特殊堤では、壁が立ち上がり、川の風景を楽しむことができない。「普段は川が眺められるように枠だけにして欲しい。洪水の時には、自分たちも畳を入れて協力する」といった周辺住民の防災意識の高さがこの置堤防を実現させているのである。

置堤の知恵

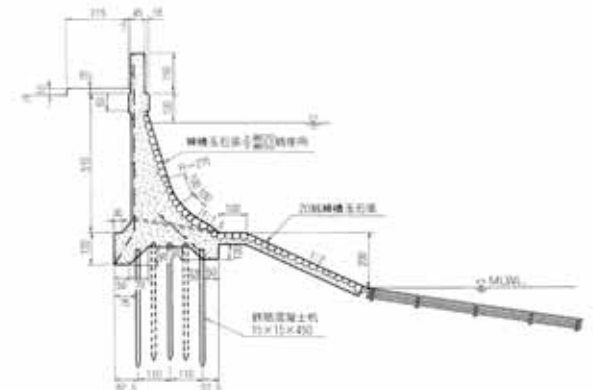
置堤には、地域住民と一体となった防災ということのほかにも、畳はどこ家庭にもあるためすぐ用意できる(1)、畳は水分を含むと膨張し強度を増す。といった知恵がこめられており、まさに防災の理にかなった地域防災手法である。

1 置堤の建設当時の畳は本間サイズであったが、現在の畳は小さい団地サイズが主流なため、畳の手配が困難になっている。龍野市水防倉庫には本間サイズの畳を保管している。



長良川（岐阜市）の置堤(出典28-1)

長良川（岐阜市）の置堤は、金華山の麓という場所柄を反映した玉石積みの護岸の上部に組み込まれている。揖保川の置堤を設計した当時の技術者は、長良川の置堤の視察を行い、参考にしたといわれている



長良川置堤断面図(出典28-2)



揖保川（龍野市）の置堤防(出典28-3)



水防訓練の様子(出典28-4)

揖保川（龍野市）の水防訓練で畳を差し込んだ状況
ちなみに、揖保川では、幸いにも置堤を実際に活用する洪水は起きてはいない

【霞堤】

霞堤は、上流から下流に一樣に連なる連続堤防とは異なり、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地側に延長させて、開口部の上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防である。現在では、開口部を締め切り連続堤防とすることが多くなされているが、霞堤には、地域と川との関わりのあり方を考える上でのヒントが潜んでいる。

霞堤には以下の2つの効果がある。一つは平常時の堤内地からの排水を容易にすること。もう一つは、上流で堤内地に氾濫した水を霞堤の開口部からすみやかに川に返し被害の拡大を防ぐことである。これらは主に急流河川における霞堤防の効果であるが、緩流河川における霞堤については、二重になった堤防の間の空間が一種の貯留スペースとして機能し、下流への流量負担の軽減という効果を持つ。また、緩流河川では、この二重になった堤防の間に貯留またはその空間を逆流し緩やかに氾濫させた洪水による堤内農地への栄養分の供給という効果も併せ持つ。そして、このような効果をより高めることから、霞堤は防水害防備林と呼ばれる樹林帯と一体となって整備されることも多く、河川の風景としても実に優れたものであることが多い。

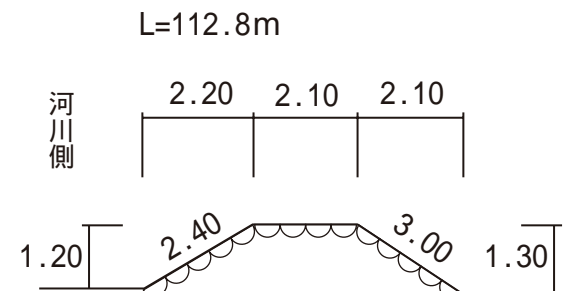
このことは、洪水を川の中だけに押し込めることで、川と地域との分断を生み出したきた川づくりに対して、地域の土地利用のあり方と河川整備のあり方が不可分であることを教えてくれる。

【水害防備林（水防林）】

水害防備林は、河岸の侵食を防止するとともに、氾濫流の流速低減、土砂抑止を目的とした治水施設であり、耕地や家屋を壊滅的な破壊から守る重要な治水工法の一つであった。水防林には各種の竹、笹類のほか、ケヤキ、クス、クリ、エノキなどが用いられるが、対象とする洪水・氾濫のエネルギーの強弱、水位の高低により、樹種や樹間の密度を変えるなど、それぞれの河川・地域の特性に応じた工夫が見られる。また水防林として植えられたタケやクリなどの林は沿川住民の生産活動の場ともなっていた。そのため、維持管理は沿川住民によってなされることが多く、美しい樹林として著名な水防林も多く存在している。



水防林の中に残る古い霞堤(出典28-6)



水防林の中に残る古い霞堤の実測断面図(出典28-7)



荒川沿いに広がる水防林と霞堤(出典28-5)

荒川 10月1日撮影

阿武隈川水系荒川（福島県）

荒川沿いには今も霞堤と見事な水防林が残る。また水防林の中には江戸時代以降の古い霞堤も多く残存している。水防林は、その多くが明治大正期に保安林として指定され、今日に引き継がれてきたものである。近年では堤防から20mの堤内地側の範囲を樹林帯として位置づけ、不足箇所の植樹等を行っている。水防林と霞堤は、沿川の人々による水防活動の履歴を示すものであり、近年では地域の人々の学習やレクリエーションの場として利用されている。



霞堤の開口部(出典28-8)



霞堤に沿って分布する水防林(出典28-9)

【輪中堤】

輪中堤も現在一般的な連続堤防とは異なる治水の考え方に基づく堤防である。その違いは、連続堤防が「洪水の流れる空間を限る」という考え方であるのに対し、輪中堤は拠点的に「洪水の流れない空間を限る」という考え方の堤防であることにある。

常習的な洪水被害に悩まされている地域において、洪水対応を図る必要性は強いが、とても河川洪水を完全に制御することはできないという葛藤の中から生まれた知恵であるといえる。

木曾三川では、自然堤防を活用した尻無し堤（洪水の流れてくる上流側だけを堤防で守り下流側は開いた形状の堤防）が輪中堤の起源となっている。集落を共同で守ることから、集落の周りに堤防を巡らしたかたちの輪中堤となっている。ちなみに堤内地という言葉の意味も、輪中堤をベースに発想すると納得がいきやすい。近年では、災害復旧において、洪水被害の早期解消の観点から、輪中堤方式が採用される事例も現れている。



空から眺めた輪中堤(出典28-10)
我が国の代表的な輪中地帯である長良川・木曾川・揖斐川の下流部に見られる輪中堤



輪中堤の切割り(出典28-11)
輪中堤の中と外を結ぶ道路を通すために設けられた輪中堤の切割り



こわくび
強首輪中堤(出典28-12)
近年では、水害常襲地帯の早期解消の観点から輪中堤方式が見直されつつある

【水屋・水塚】

水屋・水塚は、氾濫があっても、浸水しないように盛土した屋敷で、大規模な氾濫水位を想定して一段と高くした塚の上には、避難用の家屋や蔵を備えている例が多い。盛土の形（平面形状）についても、三角形や船形として激しい洪水氾濫に備えるなどの工夫が見られるものもある。



水屋(出典28-13)
家の周りを石垣で囲い盛土した上に住居を構える水屋。生垣は水害防備林と同じ役割を有する



水屋に見られる洪水対応の知恵(出典28-14)
盛土された敷地の上に立つ母屋から、さらに一段高い塚の上に立つ蔵に避難するための階段が設けられている。水屋には避難用の船を準備している場合も多い。



【潜橋（沈下橋）】

洪水時は水没する橋を、潜橋あるいは沈下橋と呼んでいる。高水敷間の渡渉あるいは、通常の橋梁を設けると費用や橋高の関係などから、架橋が困難な時に設けられる。潜橋を設ける際には、洪水の疎通能力を十分に検討し、かつ以下の点に留意する必要がある。

フェンス類を原則としてつけないこと。これは、フェンス類に上流から流れてくる流木やごみなどが引っ掛かり、それが流水の大きな障害になるからである。

流水の抵抗をできるだけ抑える断面形とすること。そのため、潜橋では桁の断面に丸みを付けることが多い。

これらの原則を守れば潜橋を設けても構わないという単純なことではないが、河川公園整備の一環として、水面を渡る橋が必要と考える際など、潜橋というものの考え方を知った上でデザインすることが有効になる。



四万十川の半家沈下橋（潜橋）（出典28-15）
後ろに架かる通常の橋梁と比べるとその特徴の差が明瞭である

【流れ橋】

洪水時には流されることを前提とした、板を架け渡しただけの簡易な形態の橋を流れ橋と呼ぶ。

架け渡した板をワイヤーで結んでおき、そのワイヤーの一端を岸に結び付けておくことで、洪水により板は流されるが、洪水後ワイヤーを手繰り寄せることで、元の板をまた容易にかき集めることができ、橋を復活させる。同様の考え方に基づく堰もある。

流れ橋にみられる考え方は、河川のデザインを考える場合に、永久構造物としての姿だけでなく、いわば、仮設構造的なデザインのあり方の可能性を教えてくれている。



円山川の流れ橋（出典28-16）

【川床】

流れ橋に見られた仮設構造的な考え方を、川を楽しむ巧みな装置として洗練させたものが川床（かわどこ ^{かわどこ}）である。

京都鞍馬の貴船川の川床が著名である。

川の流れの中に、床机を置き、その上でせせらぎの涼をまさに五感でもって楽しみ、美味しい食事を供するのである。

もちろん洪水時にはそんな風流を楽しむ必要は無い。平常時の穏やか流れの時だけの楽しみである。しかし、ここにも川と付き合うための作法がある。

平常時に川床を出すといっても、夜のうちにいつ何時雨が降り出し大雨になるかも分からない。そのため、毎日毎日、一度出した川床をきれいに片付けて撤去するのである。その上で、また翌朝、床を出してよいかどうかの伺いをたて、了解されれば床を出すのである。京都には、市内の鴨川河畔にも高水敷のせせらぎ（みそそぎ川）の上に仮設の足場を組んだ形の床があり、納涼床として夏の風物詩となっている。



京都鞍馬貴船川の川床（出典28-17）



京都鴨川川沿いの納涼床（出典28-18）

流れのデザイン

河川のデザインを考えるにあたって、流れの表情をどのようにデザインするかは大きなポイントになる。静かにゆったりとした流れを演出するのか、清涼感のある流れを演出するのか、など。

ここでは、これらの流れのデザインに関する基本的な知見を示す。

利用形態と流速の関係(出典29-1)

| [造園学の流速から見た河川のイメージ、利用形態] | | [現地調査から得られた河川の利用状態] | |
|---------------------------|---------------|--------------------------|-------------------|
| 利用形態 | 河川のイメージ | 流速 (m/s) | 利用形態 |
| 幼児の水遊び | せせらぎ | 0.1以下 | 幼児の水遊び |
| 小魚とり、灯ろう流し、川の中を歩く | 緩い流れ | 0.2 ↓ (0.3) | 小魚とり |
| ボート遊びや水遊びの限界 | — | 0.4 ↓ (0.5) | 川の中を歩く・水泳 |
| 大人でも立っているのが困難 | 急い流れ | 0.6 ↓ 0.8 | ボート遊びや水遊びの限界 |
| 何かにつかまっていなくて流されそう。カヌー、舟下り | 激しい流れ (0.8以上) | 1.0 ↓ 1.2 1.2以上 | 大人でも立っているのが困難 |
| | | | 何かにつかまっていなくて流されそう |
| | | | カヌー、舟下り |

流れの表情と流速(出典29-2)



流速：0.06m / s
流れがない、波立ちなし



流速：0.18m / s
流れがわかる、波立ちなし



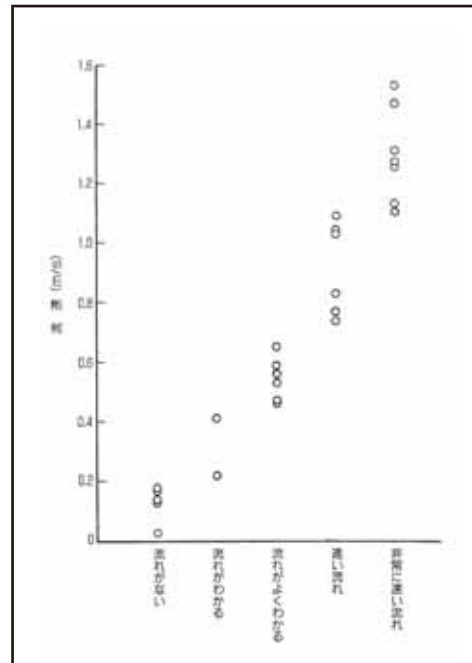
流速：0.55m / s
流れがよくわかる、波立ちあり



流速：0.73m / s
速い流れ、波立ちあり



流速：1.31m / s
非常に速い流れ、波立ち大



流れのイメージと流速の関係(出典29-3)

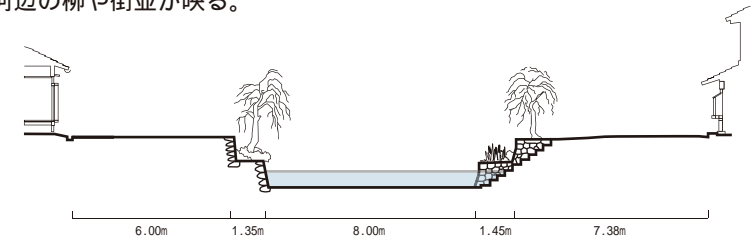


倉敷川(倉敷)(出典29-4)
表面流速：0(流れなし)



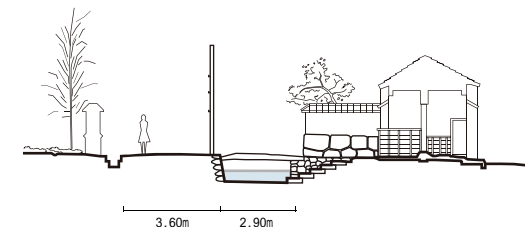
あいは 藍場川(萩)(出典29-6)
表面流速：約0.1m / s

流れは感じない。
静水面に河辺の柳や街並が映る。



倉敷川断面イメージ(出典29-5)

流れはほとんど感じない。



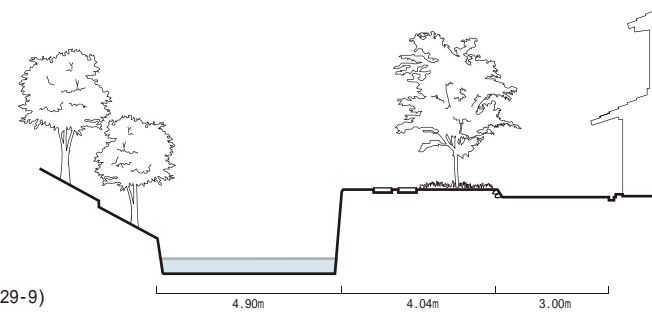
藍場川断面イメージ(出典29-7)



京都・琵琶湖疎水(出典29-8)
表面流速：約0.3m / s

ゆるやかな流れを感じる事ができる。

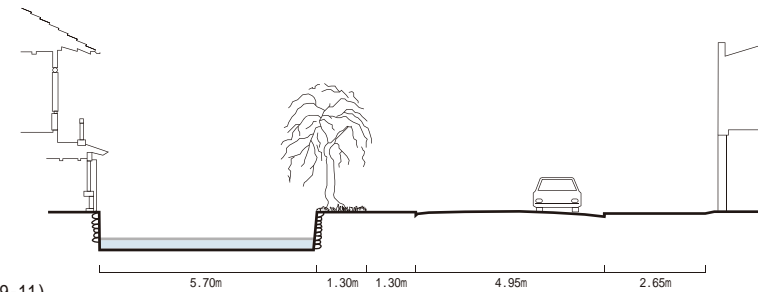
京都・琵琶湖疎水断面イメージ(出典29-9)



高瀬川(出典29-10)
表面流速：約0.6m / s

水面が近いこともあり、ゆるやかなながらも豊かな流れを感じる。

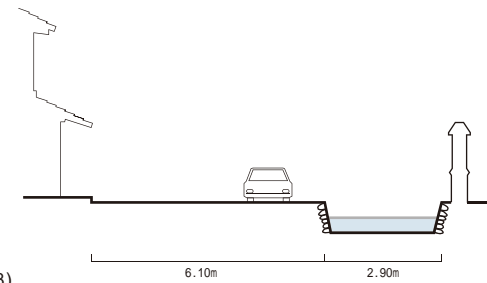
高瀬川断面イメージ(出典29-11)



明神川(京都社家町)(出典29-12)
表面流速：約0.6m / s

波立って流れる箇所もあり豊かな流れを感じる。

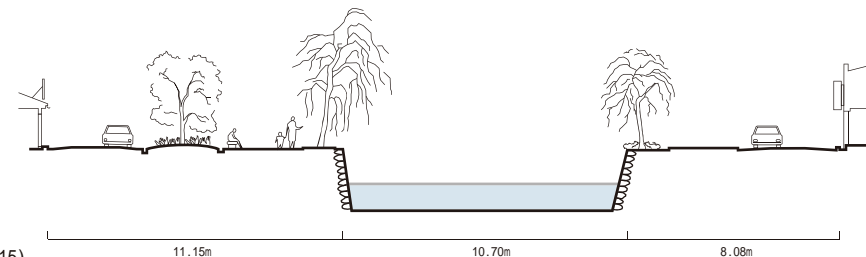
明神川断面イメージ(出典29-13)



広瀬川(前橋)(出典29-14)
表面流速：約0.8m / s

かなり速い流れであり、やすらぎと同時に清涼感を強く感じる。

広瀬川断面イメージ(出典29-15)



引用・参考資料リスト【河川分野】

| 富士川水系・信玄堤 | | | | |
|---------------|--|---------------------------|---------------------------|-------|
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 山梨郷土研究会・山梨県考古学協会・武田氏研究会第1回合同シンポジウム 信玄堤の再評価 資料集 | 「信玄堤の再評価」実行委員会 | 「信玄堤の再評価」実行委員会 | 2004年 |
| 引用 | 甲斐の道づくり・富士川の治水 | 建設省関東地方建設局甲府工事事務所 | 建設省関東地方建設局甲府工事事務所 | 1989年 |
| 引用 | 富士川の治水を見る | 国土交通省関東地方整備局 甲府河川国道事務所 | 国土交通省関東地方整備局 甲府河川国道事務所 | 2004年 |
| 引用 | グラフ信玄堤「千二百年の系譜と大陸からの潮流」 | 和田一範 | 山梨日日新聞社 | 2003年 |
| 引用 | 武田信玄と治水 | 中村正賢 | (社)山梨県林業研究会 | 1965年 |
| 参考 | 山梨県水害史 | 早川文太郎・須田宇十共著 | 山梨県水害史発行所 | 1911年 |
| 参考 | 日本思想体系62 近世科学思想 上 | 古島敏雄・安芸皎一校注 | (株)岩波書店 | 1972年 |
| 参考 | 山梨県砂防誌 | 「山梨県砂防誌」編集委員会 | 「山梨県砂防誌」編集委員会 | 1996年 |
| 参考 | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第152集山梨県堤防河岸遺跡分布調査報告書 | 山梨県埋蔵文化財センター | 山梨県教育委員会 | 1998年 |
| 参考 | 信玄堤 千二百年の系譜と大陸からの潮流 | 和田一範 | 山梨日日新聞社 | 2002年 |
| 参考 | 竜王町史 | 竜王町 | 竜王町 | 1976年 |
| 参考 | 竜王町史 | 竜王町史編纂委員会企画 | 竜王町 | 2004年 |
| 巴川・香嵐渓 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 足助町観光協会創立50周年記念誌 | 足助町観光協会 | 足助町観光協会 | 2005年 |
| 参考 | 足助町誌 | 足助町誌編集委員会 | 足助町 | 1975年 |
| 参考 | 多自然川づくりポケットブック | (財)リバーフロント整備センター | | 2007年 |
| 参考 | 多自然型川づくりを越えて | 吉川勝秀編 妹尾優二・吉村伸一著 | (株)学芸出版社 | 2007年 |
| 大淵川・城崎温泉街地先護岸 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 参考 | 城崎町史 | 城崎町史編纂委員会 | 城崎町 | 1988年 |
| 参考 | 城崎物語 | 神戸新聞総合出版センター | 神戸新聞総合出版センター | 2005年 |
| 参考 | 兵庫県の近代化遺産 - 兵庫県近代化遺産(建造物)総合調査報告書一 | 兵庫県教育委員会事務局文化財室 | 兵庫県教育委員会事務局文化財室 | 2006年 |
| 夙川・河川敷緑地 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 夙川公園概要 | 西宮市 | | 1937年 |
| 参考 | 夙川公園(遊歩道)は如何にしてできたか (『公園緑地』2巻6号) | A・B生 | (社)日本公園緑地協会 | 1938年 |
| 参考 | 西宮市夙川河川敷緑地の松林を守る (『グリーンエイジ』262号) | 石井健雄 | (財)日本緑化センター | 1995年 |
| 参考 | パークウェイとして整備された夙川公園の特徴とその意義(『国際交通安全学会誌』23巻1号) | 越沢明 | 国際交通安全学会 | 1997年 |
| 鴨川・京都市街地河道 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 鴨川及高野川改修計画概要 | 京都府 | | 1937年 |
| 引用 | 鴨川及高野川改修計画書ならびに鴨川改修計画に附帯する事業計画 | 京都府 | | 1938年 |
| 引用 | 千年の都と鴨川治水 | 京都府土木建築部河川課 | | 2003年 |
| 引用 | 鴨川改修事業計画ならびに施工の大要附図 | 京都府 | | |
| 参考 | 鴨川改修二関スル稟請書 | 京都府 | | 1935年 |
| 参考 | 昭和十年六月二十九日鴨川未曾有の大洪水と旧都復興計画 | 京都府 | | 1935年 |
| 参考 | 土木試験所報告 第49号(急流河川の床止堰堤下流部の洗掘に関する模型実験) | 安芸皎一・佐藤清一 | 内務省土木試験所 | 1940年 |
| 参考 | 淀川百年史 | 建設省近畿地方建設局 | 建設省近畿地方建設局 | 1974年 |
| 参考 | 鴨川の歩み | 京都府京都土木工営所 | | 1979年 |
| 参考 | 戦前の鴨川改修計画における環境面の配慮 (『第7回日本土木史研究発表会論文集』) | 松浦茂樹 | (社)土木学会 | 1987年 |
| 参考 | 水辺空間の魅力と創造 | 松浦茂樹・島谷幸宏 | 鹿島出版 | 1987年 |
| 参考 | 水辺におけるアメニティの変遷に関する研究 (『土木計画学研究・論文集』第16号) | 田中尚人・川崎雅史・牧田通 | (社)土木学会 | 1999年 |
| 参考 | 鴨川公園全体関連調査 | 京都府 | | |

| 一の坂川・石積護岸 | | | | |
|--------------------|---|---------------------------------|-----------------|-------|
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 参考 | 山口県のホテル護岸工法 (『河川』395号) | 重本達雄・河口英明 | (社)日本河川協会 | 1979年 |
| 参考 | 河川の新しい試み-住みよい環境をめざして- | 山口県土木建築部河川課 | 山口県土木建築部河川課 | 1982年 |
| 参考 | 川づくりをまちづくりに | 樋口明彦+川からのまちづくり研究会 | (株)学芸出版社 | 2003年 |
| 太田川・基町護岸 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 水辺の景観設計 | (社)土木学会 | 技報堂出版(株) | 1988年 |
| 参考 | 河川景観デザインのために (『クリーンエージ』1981年9月号) | 北村真一 | | 1981年 |
| 参考 | 市民がデザインする広島の水辺風景 (『リサーチ中国』2005年2月号) | 隆杉純子 | (社)中国地方総合研究センター | 2005年 |
| 参考 | 土木学会デザイン賞2003(土木学会、景観・デザイン委員会ホームページ) http://www.jsce.or.jp/committee/lcd/prize/2003/works/2003s1.html | (社)土木学会 | | |
| 参考 | 太田川基町護岸設計主旨(北村真一ホームページ) http://www.js.yamanashi.ac.jp/~skita/otar0.htm http://www.js.yamanashi.ac.jp/~skita/otarivpres1.htm | 北村真一 | | |
| 八東川・多自然型川づくり | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 参考 | 八東川多自然型川づくり | 鳥取県郡家土木事務所 | | 1995年 |
| 参考 | 多自然型川づくりとサロン方式による全住民参加の川づくり手法について | 美甘頼昭 | | |
| 参考 | まちと水辺に豊かな自然を | (財)リバーフロント整備センター | (株)山海堂 | 1996年 |
| 津和野川・景観整備 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 土木学会デザイン賞作品選集2002 | (社)土木学会景観・デザイン委員会 | | 2003年 |
| 引用 | GROUNDSCAPE篠原修の風景デザイン | 東京大学景観研究室編著 | | 2006年 |
| 引用 | 津和野川ふるさとの川整備事業パンフレット | 島根県・津和野町 | | 1996年 |
| 引用 | シビックデザイン~自然・都市・人々の暮らし | 建設省中部地方建設局シビックデザイン検討委員会編・岡田一天 他 | 大成出版 | 1996年 |
| 阿武隈川・渡利地区水辺空間整備 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 土木学会デザイン賞作品選集2004 | (社)土木学会景観・デザイン委員会 | | 2005年 |
| 参考 | 都市に水辺をつくる | 藤原宣夫編著・伊藤登 他 | 技術書院 | 1999年 |
| 子吉川・二十六木地区多自然型川づくり | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 土木学会デザイン賞作品選集2005 | (社)土木学会景観・デザイン委員会 | | 2006年 |
| 参考 | 土木学会デザイン賞応募説明資料 | 日本建設コンサルタント(株) | | |
| 参考 | 子吉川二十六地区災害関連緊急事業パンフレット | 建設省秋田工事事務所 | | |
| 参考 | 平成6年度子吉川二十六地区河道計画検討補足業務報告書 | 日本建設コンサルタント(株) | | 1994年 |
| 参考 | 平成7年度二十六地区水制工調査報告書 | 日本建設コンサルタント(株) | | 1996年 |
| 参考 | 平成8年度二十六地区水制工調査報告書 | 日本建設コンサルタント(株) | | 1997年 |
| 和泉川・東山の水辺と関ヶ原の水辺 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 土木学会デザイン賞作品選集2005 | (社)土木学会景観・デザイン委員会 | | 2006年 |
| 引用 | 和泉川流域ワークショップパンフレット | 横浜市下水道局河川設計課 | | 1989年 |
| 引用 | 和泉川環境整備計画(案) | 横浜市 | | 1988年 |
| 参考 | 多自然型川づくりを越えて | 吉川勝英編著・吉村伸一他 | (株)学芸出版社 | 2007年 |

| 木曾川・船頭平閘門 | | | | |
|-----------------------|--|---|---|-------|
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 船頭平閘門（パンフレット） | 国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所 | 国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所 | 2005年 |
| 引用 | 船頭平閘門改築記念誌 | （財）河川環境管理財団 | 建設省中部地方建設局 木曾川下流工事事務所 | 1996年 |
| 参考 | 船頭平閘門のあらし | 国土交通省中部地方整備局木曾川下流工事事務所・船頭平閘門管理所・（財）河川環境管理財団 | 国土交通省中部地方整備局木曾川下流工事事務所・船頭平閘門管理所・（財）河川環境管理財団 | 2001年 |
| 参考 | 生まれ変わった船頭平閘門 | 建設省中部地方整備局 木曾川下流工事事務所 | | 1994年 |
| 荒川・岩淵水門 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 荒川 歴史を語る荒川写真集 大正10年～昭和20年 | 建設省関東地方建設局 荒川下流工事事務所 | 建設省関東地方建設局 荒川下流工事事務所 | |
| 参考 | 都市を往く荒川 荒川下流工事事務所七十五年史 | 荒川下流工事事務所七十五年史編集委員会・（株）建設環境研究所 | 建設省関東地方建設局 荒川下流工事事務所 | 1990年 |
| 参考 | 荒川下流誌 | 荒川下流誌編纂委員会 | （財）リバーフロント整備センター | 2005年 |
| 旧北上川分流通施設群（脇谷水門・鴉波水門） | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 美しい国づくり 美しい国土づくりアドバイザー制度事例紹介(旧北上川分留施設改築事業) | 国土交通省東北地方整備局ホームページ | | |
| 引用 | 旧北上川分流通施設改築事業計画概要パンフレット | 国土交通省東北地方整備局 北上川下流工事事務所 | | 1999年 |
| 引用 | 鴉波水門建設工事図面・脇谷水門建設工事図面 | 国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所 | | |
| 参考 | 北上川百年史 | 建設省東北地方建設局 | | 1991年 |
| 参考 | 北上川歴史読本・其ノ巻（改修史） | 国土交通省東北地方整備局 北上川下流工事事務所 | | 1999年 |
| 参考 | 分流通設計画検討委員会資料 | 建設省東北地方建設局 北上川下流工事事務所 | | |
| 嘉瀬川・石井樋 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 疏導要書 | 南部長恒 | | 1834年 |
| 参考 | 嘉瀬川・石井樋地区における歴史的システムの再生計画 （『景観・デザイン研究講演集』No. 2） | 吉村伸一 | （社）土木学会 | 2006年 |
| 参考 | 石井樋大井手堰の土木造形（『景観・デザイン研究講演集』No. 2） | 逢澤正行 | （社）土木学会 | 2006年 |
| 参考 | 成富兵庫の土木技術と石井樋の復元（『葉隠研究』58号） | 尾澤卓思 | 葉隠研究会 | 2006年 |
| 参考 | 石井樋 さが水ものがたり館の紙上紹介（『葉隠研究』58号） | 金子信二 | 葉隠研究会 | 2006年 |
| 参考 | 石井樋関連遺構の石垣について（『佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第5集 石井樋』） | 高瀬哲郎 | 佐賀市教育委員会 | 2006年 |
| 参考 | 佐賀・石井樋の復元設計にかかわって（『国づくりと研修』118） | 吉村伸一 | （財）全国建設研修センター | 2007年 |
| 筑後川・山田堰 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 床島堰開発史展図録 | 久留米市立草野歴史資料館 | 久留米市立草野歴史資料館 | 1986年 |
| 引用 | 筑後川農業水利誌 | 筑後川農業水利誌編纂委員会 | 九州農政局 筑後川水系農業水利調査事務所 | 1977年 |
| 引用 | 筑後川大百科 | 国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所 | 国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所 | 2003年 |
| 参考 | 筑後川五十年史 | 建設省九州地方建設局筑後川工事事務所 | | 1976年 |
| 参考 | 改訂山田井堰堀川三百年史 | 山田堰土地改良区 | 鶴田多多穂 | 1981年 |

| 隅田川・隅田公園 | | | | |
|-----------------|--|--------------------|---------------------|-------|
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 保存版古写真でみる江戸から東京へ | 小沢健志・鈴木理生監修 | (株)世界文化社 | 2001年 |
| 引用 | ビジュアルブック江戸東京5 水の東京 | 陣内秀信 | (株)岩波書店 | 1993年 |
| 参考 | 隅田公園 | 川本昭雄 | (株)郷学舎 | 1981年 |
| 参考 | 東京の公園110年 | 東京都建設局公園緑地部 | 東京都建設局公園緑地部 | 1985年 |
| 参考 | 東京都市計画物語 | 越沢明 | ちくま学芸文庫 | 2001年 |
| 参考 | 帝都復興事業誌 建築編・公園編 | 内務省復興事務局 | | 1931年 |
| 参考 | 隅田公園へ行こう～隅田公園沿革史～ | パシフィックコンサルタンツ(株) | 墨田区役所 | 2004年 |
| 牛伏川・フランス式階段工 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 『大正5年 砂防工事関係書類 土木課 全』 | 長野県 | | 1916年 |
| 引用 | 牛伏川砂防工事沿革史 | 牛伏川砂防工事沿革史編纂会 | 牛伏川砂防工事沿革史編纂会 | 1933年 |
| 引用 | 松本砂防のあゆみ - 信濃川上流直轄砂防百年史一 | 信濃川上流直轄砂防百年史編集委員会 | 建設省北陸地方建設局松本砂防工事事務所 | 1979年 |
| 参考 | 日本砂防史 | - | (社)全国治水砂防協会 | 1981年 |
| 参考 | 続・ふるさと土木史「長野県 牛伏川・フランス式階段工」(早川秀輔・近藤浩一・山岸久一執筆分) | (社)経済調査会編 | (社)経済調査会編 | 1977年 |
| 木曾川水系・羽根谷砂防第一堰堤 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 岐阜県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書 | 岐阜県教育委員会指導部文化課 | 岐阜県教育委員会 | 1996年 |
| 参考 | 日本の砂防 | - | (社)全国治水砂防協会 | 1990年 |
| 参考 | 砂防に挑んだ人たち | - | 南濃町役場 | 1993年 |
| 参考 | 砂防環境整備事業記録集(羽根谷だんだん公園・さぼう遊学館) | 「砂防環境整備事業記録集」編集委員会 | 砂防広報センター | 1998年 |
| 雲原砂防施設群 | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書 | 京都府中丹西土木事務所 | | 2005年 |
| 引用 | 赤木正雄の足跡 | 矢野義男 | | |
| 参考 | 砂防一路 | 赤木正雄 | | 1965年 |
| 参考 | 日本砂防史 | (社)治水砂防協会 | | 1991年 |
| 参考 | 砂防遺産 雲原流路工(砂防学会誌 Vol51.No3) | 矢野義男 | | 1998年 |
| 参考 | 雲原砂防と地域の暮らし | 京都府福知山土木事務所 | | 2004年 |
| 参考 | 雲原の砂防 | 京都府福知山土木事務所 | | 2004年 |
| 参考 | 新登録の文化財(『月刊文化財』平成18年8月号) | 文化庁文化財部 | | 2006年 |
| 布引ダム(五本松堰堤) | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 神戸市水道70年史 | 神戸市水道局 | | 1973年 |
| 引用 | 中島工學博士記念 日本水道史 | 中島工學博士記念事業委員会 | | 1927年 |
| 参考 | ダム空間をトータルにデザインする | 篠原修編、池田弘樹他 | 山海堂 | 2007年 |
| 立ヶ畑ダム(烏原堰堤) | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 神戸市水道70年史 | 神戸市水道局 | | 1973年 |
| 引用 | 中島工學博士記念 日本水道史 | 中島工學博士記念事業委員会 | | 1927年 |
| 参考 | ダム空間をトータルにデザインする | 篠原修編、池田弘樹他 | 山海堂 | 2007年 |

| 小牧ダム | | | | |
|------------------|-----------------------------|--------------------------------|-------------------------|-------|
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 小牧ダム発電工事報告（『土木学会誌』第18巻4号） | 石井頼一郎 | | 1932年 |
| 参考 | 関西電力五十年史 | 関西電力株式会社 | | 2002年 |
| 白水ダム | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 参考 | 大分県土地改良史 | 大分県農政部 | | 1979年 |
| 参考 | 富士緒井路水利史 | 富士緒井路土地改良区 | | 1981年 |
| 参考 | 大分県の近代化遺産 | 大分県教育委員会 | | 1994年 |
| 引用 | 白水ダム物語 | 岡の里事業実行委員会 | | 2002年 |
| 引用 | 白水貯水池ノ事業経過概要 | 富士緒井路土地改良区 | 富士緒井路土地改良区所蔵 | |
| 水門の開閉装置の変化とデザイン | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 堰の設計 | 山内彪、（財）ダム技術センター | （株）山海堂 | 1990年 |
| 引用 | 信濃川大河津分水誌 第2集・第2集別冊 | 建設省北陸地方建設局長岡工事事務所 | 建設省北陸地方建設局長岡工事事務所 | 1968年 |
| 引用 | 河川工学 | 宮本武之輔 | アルス | 1936年 |
| 引用 | 都市を往く荒川 荒川下流工事事務所75年史 | 荒川下流工事事務所七十五年史編集委員会・（株）建設環境研究所 | 建設省関東地方建設局 荒川下流工事事務所 | 1990年 |
| 引用 | 水門工学 | 水工環境防災技術研究会・「水門工学」編纂委員会 | 技報堂出版（株） | 2004年 |
| 引用 | 鋼鉄ゲート百選 | 水門の風土工学研究委員会 | 技報堂出版（株） | 2000年 |
| 参考 | 大河津分水路パンフレット | 国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所 | | |
| 護岸の端部デザイン | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 参考 | 石垣と石積壁 | 窪田祐 | （株）学芸出版社 | 1980年 |
| 参考 | 石積の秘法とその解説（改訂増補版） | 大久保森造・大久保森一 | 理工図書（株） | 1983年 |
| 参考 | 水辺階段の型と形に関する研究（『造園雑誌』52巻5号） | 石井桂・下村彰男・篠原修 | （社）日本造園学会 | 1989年 |
| 伝統治水に学ぶしなやかなデザイン | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 引用 | 畳堤 | 国土交通省近畿地方整備局 姫路河川国道事務所 | | 2004年 |
| 引用 | 木曾三川の治水史を語る | 建設省中部地方整備局 木曾川上流工事事務所 | | 1969年 |
| 参考 | 木曾三川治水百年のあゆみ | 建設省中部地方建設局 | | 1995年 |
| 参考 | 水害防備林 | 上田弘一郎 | 産業図書 | 1955年 |
| 引用 | 写真集空から見る木曾三川下流 | 建設省木曾川下流工事事務所 | | 1995年 |
| 参考 | 伸びゆく輪中 三訂版 | 海津町教育委員会 | | 1998年 |
| 参考 | 都市の水辺をデザインする | 篠原修編、岡田一天他 | 彰国社 | 2005年 |
| 引用 | 四万十川全沈下橋一覧 | 四万十川ポータルサイト 四万十かざぐるま | | |
| 引用 | 空から見た雄物川 強首橋・強首輪中堤付近 | 国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 | | |
| 流れのデザイン | | | | |
| 種別 | 文献・資料名 | 編著者・作成者 | 発行・出版等 | 年次 |
| 参考 | 生きている水路 | 渡辺一三 | 東海大学出版会 | 1984年 |
| 引用 | 河川風景デザイン | 島谷幸宏編著 | 山海堂 | 1994年 |
| 引用 | 川の親水プランとデザイン | （財）リバーフロント整備センター | 山海堂 | 1995年 |

図版出典リスト【河川分野】

| 富士川水系・信玄堤 | | | |
|-----------|---|------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 002 | 開国橋付近上空より上流方向に竜王信玄堤を望む | 写真 | 1-1 甲斐市提供 |
| 002 | 位置図 | 図 | 1-2 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 003 | 釜無川・御勅使川の河道変遷図 | 図 | 1-3 『山梨郷土研究会・山梨県考古学協会・武田氏研究会第1回合同シンポジウム 信玄堤の再評価 資料集』に記載されている旧流路図などから作成 |
| 003 | 釜無川・御勅使川における信玄堤システムの概要図 | 図 | 1-4 『甲斐の道づくり・富士川の治水』（建設省関東地方建設局甲府工事事務所、1989年）p171に記載されている図に『富士川の治水を見る』の情報などを加筆 |
| 003 | 石積み出し（左上） | 写真 | 1-5 国土技術政策総合研究所 |
| 004 | 石積み出し（左下） | 写真 | 1-6 和田一範『グラフ信玄堤・千二百年の系譜と大陸からの潮流』p16の写真を転載（一部加筆） |
| 004 | 竜岡将棋頭（左上） | 写真 | 1-7 和田一範『グラフ信玄堤・千二百年の系譜と大陸からの潮流』p21の写真を転載（一部加筆） |
| 004 | 竜岡将棋頭（左下） | 写真 | 1-8 和田一範『グラフ信玄堤・千二百年の系譜と大陸からの潮流』p20の写真を転載（一部加筆） |
| 004 | 十六石 | 写真 | 1-9 和田一範『グラフ信玄堤・千二百年の系譜と大陸からの潮流』p23の写真を転載（一部加筆） |
| 004 | 堀切 | 写真 | 1-10 和田一範『グラフ信玄堤・千二百年の系譜と大陸からの潮流』p22の写真を転載（一部加筆） |
| 004 | 高岩 | 写真 | 1-11 国土技術政策総合研究所 |
| 005 | 竜王信玄堤下流の水防林 | 写真 | 1-12 国土技術政策総合研究所 |
| 005 | 毎年4月に行われる「おみゆきさん」 | 写真 | 1-13 和田一範『グラフ信玄堤・千二百年の系譜と大陸からの潮流』p93の写真を転載（一部加筆） |
| 005 | 高岩頭首工 | 写真 | 1-14 国土技術政策総合研究所 |
| 005 | 廃止された岩穴水門 | 写真 | 1-15 国土技術政策総合研究所 |
| 006 | 貞享5年（1688）に書かれた絵図 | 写真 | 1-16 『甲斐の道づくり・富士川の治水』p174の図を転載（信玄堤の古絵図） |
| 006 | 文政7年（1824）に書かれた絵図 | 写真 | 1-17 甲斐市提供 |
| 006 | 竜王信玄堤の変化を比較するために絵図を現況地形に照らし合わせて作成したものと思われる図 | 図 | 1-18 中村正賢『武田信玄と治水』p89の図を転載 |
| 007 | 二番堤付近の現況断面図 | 図 | 1-19 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所提供資料をもとに作成 |
| 007 | 竜王信玄堤現況平面図 | 図 | 1-20 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所提供資料に加筆 |
| 007 | 信玄堤公園 | 写真 | 1-21 国土技術政策総合研究所 |
| 007 | 竜王信玄堤地先の堤防天端風景 | 写真 | 1-22 国土技術政策総合研究所 |
| 007 | 竜王信玄堤地先に設置された聖牛 | 写真 | 1-23 国土技術政策総合研究所 |
| 巴川・香嵐渓 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 008 | 巴川 香嵐渓 | 写真 | 2-1 (株)地域開発研究所所蔵 |
| 008 | 分割された護岸の中に植栽された楓 | 写真 | 2-2 国土技術政策総合研究所 |
| 008 | 80年あまりの歳月をかけて楓や桜を植栽した飯盛山 | 写真 | 2-3 国土技術政策総合研究所 |
| 008 | 位置図 | 図 | 2-4 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 009 | 大正13年の園地整備写真 | 写真 | 2-5 『足助町観光協会創立50周年記念誌』p12の写真を転載 |
| 009 | 巴川現況平面図 | 図 | 2-6 豊田市足助支所提供資料に加筆 |
| 009 | 複数に区分された護岸 | 写真 | 2-7 国土技術政策総合研究所 |
| 009 | 断面位置を河原側から見る | 写真 | 2-8 国土技術政策総合研究所 |
| 009 | 断面図 | 図 | 2-9 現地において簡易測量した数値を基に作成 |

| 大谿川・城崎温泉街地先護岸 | | | |
|---------------|-----------------------------|------|------------------------------------|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 010 | 大谿川護岸 | 写真 | 3-1 国土技術政策総合研究所 |
| 010 | 位置図 | 図 | 3-2 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 011 | 完成直後の弓形橋と特殊堤 | 写真 | 3-3 豊岡市城崎支所提供資料 |
| 011 | 現在の弓形橋と特殊堤 | 写真 | 3-4 国土技術政策総合研究所 |
| 011 | 桃島橋より下流 | 写真 | 3-5 国土技術政策総合研究所 |
| 011 | 桃島橋付近から上流 | 写真 | 3-6 国土技術政策総合研究所 |
| 011 | 中心部の平面図 | 図 | 3-7 兵庫県但馬県民局豊岡土木事務所資料を基に作成 |
| 011 | 大谿川断面図 | 図 | 3-8 兵庫県但馬県民局豊岡土木事務所資料を基に作成 |
| 012 | 桃島橋・右岸側正面 | 写真 | 3-9 国土技術政策総合研究所 |
| 012 | 桃島橋・上流からの全体 | 写真 | 3-10 国土技術政策総合研究所 |
| 012 | 桃島橋・上流からの俯瞰 | 写真 | 3-11 国土技術政策総合研究所 |
| 012 | 桃島橋・右岸側・正面図 | 図 | 3-12 現地におけるレーザー測量成果より |
| 012 | 桃島橋・上流側・側面図 | 図 | 3-13 現地におけるレーザー測量成果より |
| 013 | 上流にある主橋 | 写真 | 3-14 国土技術政策総合研究所 |
| 013 | 特殊堤 | 写真 | 3-15 国土技術政策総合研究所 |
| 013 | 特殊堤の上部に設置された街灯と橋梁ライトアップ用の照明 | 写真 | 3-16 国土技術政策総合研究所 |
| 013 | 玄武岩を利用した護岸 | 写真 | 3-17 国土技術政策総合研究所 |
| 013 | 玄武洞で見られる柱状節理の玄武岩 | 写真 | 3-18 国土技術政策総合研究所 |
| 013 | 大谿川左岸護岸立面図 | 図 | 3-19 現地におけるレーザー測量成果より |
| 夙川・河川敷緑地 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 014 | 夙川河川敷緑地 | 写真 | 4-1 国土技術政策総合研究所 |
| 014 | 位置図 | 図 | 4-2 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 015 | 大井手橋上流付近の夙川河川緑地 | 写真 | 4-3 国土技術政策総合研究所 |
| 015 | 昭和12年(1937)当時の夙川公園 | 写真 | 4-4 兵庫県西宮土木事務所提供資料より |
| 015 | 整備当初の断面図 | 図 | 4-5 『夙川公園概要』に記載された図に加筆(寸法入れ直し・清書) |
| 015 | 整備当初と変わらぬ「こおろぎ橋」 | 写真 | 4-6 国土技術政策総合研究所 |
| 016 | 夙川中流域の緑地公園平面図 | 図 | 4-7 兵庫県西宮土木事務所提供資料より |
| 016 | こおろぎ橋から上流をみる | 写真 | 4-8 国土技術政策総合研究所 |
| 016 | こおろぎ橋上流付近の断面図 | 図 | 4-9 兵庫県西宮土木事務所提供資料断面図を基に作成 |
| 016 | 園地内に設置されている河川構造物 | 写真 | 4-10 国土技術政策総合研究所 |
| 016 | 夙川の河川断面図 | 図 | 4-11 兵庫県西宮土木事務所提供資料断面図を基に作成 |
| 017 | 整備当初の堰堤(床止工)構造図 | 図 | 4-12 『夙川公園概要』に記載された図に加筆(寸法入れ直し・清書) |
| 017 | 堰堤(床止工)周辺に設置されている飛び石 | 写真 | 4-13 国土技術政策総合研究所 |
| 017 | 各所に設けられている堰堤(床止工) | 写真 | 4-14 国土技術政策総合研究所 |
| 017 | 阪神大水害時の夙川の被害状況 | 写真 | 4-15 西宮市提供資料 |

| 鴨川・京都市街地河道 | | | |
|------------|-------------------|------|---|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 018 | 四条大橋より上流右岸を望む | 写真 | 5-1 国土技術政策総合研究所 |
| 018 | 位置図 | 図 | 5-2 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 019 | 鴨川断面位置図 | 図 | 5-3 京都市提供の平面図に京都府京都土木事務所提供資料の設計当時の断面位置を加筆 |
| 019 | 鴨川断面図 | 図 | 5-4 京都府京都土木事務所提供資料（鴨川設計図面類）の設計当時の図面を基に作成 |
| 019 | 左岸側の改修計画 | 図 | 5-5 『鴨川及高野川改修計画概要』に記載の図面を転載 |
| 019 | 鴨川中流部の改修前後 | 図 | 5-6 『鴨川及高野川改修計画書ならびに鴨川改修に附帯する事業計画』に記載の図面を転載 |
| 019 | 改修前の四条駅周辺の鴨川の写真 | 写真 | 5-7 『千年の都と鴨川治水』にある写真を利用 |
| 019 | 左岸改修後の四条駅周辺の鴨川の写真 | 写真 | 5-8 『千年の都と鴨川治水』にある写真を利用 |
| 020 | 鴨川改修計画標準横断の比較検討 | 図 | 5-9 京都府京都土木事務所提供資料（鴨川設計図面類） |
| 020 | 鴨川 低水護岸標準断面 | 図 | 5-10 京都府京都土木事務所提供の設計図面を清書 |
| 020 | 四条大橋付近 | 写真 | 5-11 国土技術政策総合研究所 |
| 020 | 高野川合流点付近 | 写真 | 5-12 国土技術政策総合研究所 |
| 020 | 四条大橋付近の巻天端 | 写真 | 5-13 国土技術政策総合研究所 |
| 021 | 鴨川本川にある床止堰堤 | 写真 | 5-14 国土技術政策総合研究所 |
| 021 | 床止堰堤計画平面図 | 図 | 5-15 鴨川改修事業計画ならびに施工の大要附図に記載の図面を清書 |
| 021 | 床止堰堤の袖壁部 | 写真 | 5-16 国土技術政策総合研究所 |
| 021 | 床止堰堤 | 写真 | 5-17 国土技術政策総合研究所 |
| 021 | 床止堰堤計画縦断面図 | 図 | 5-18 鴨川改修事業計画ならびに施工の大要附図に記載の図面を清書 |
| 一の坂川・石積護岸 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 022 | 琴水橋付近の一の坂川 | 写真 | 6-1 国土技術政策総合研究所 |
| 022 | 昭和40年代の一の坂護岸 | 写真 | 6-2 山口県土木建築部河川課提供資料 |
| 022 | 位置図 | 図 | 6-3 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 023 | 現在の一の坂護岸 | 写真 | 6-4 国土技術政策総合研究所 |
| 023 | イメージ平面図 | 図 | 6-5 山口県土木建築部河川課提供資料を基に作成 |
| 023 | 断面図 | 図 | 6-6 山口県土木建築部河川課提供資料を基に作成 |
| 024 | 一般的な河川護岸の構造 | 図 | 6-7 山口県土木建築部河川課提供資料を基に作成 |
| 024 | 一の坂川の護岸 | 図 | 6-8 山口県土木建築部河川課提供資料を基に作成 |
| 024 | 半練護岸の工事 | 写真 | 6-9 山口県土木建築部河川課提供資料 |
| 024 | 現在の半練護岸 | 写真 | 6-10 国土技術政策総合研究所 |
| 024 | 現在の高水敷の状況 | 写真 | 6-11 国土技術政策総合研究所 |
| 024 | 昭和50年代の写真 | 写真 | 6-12 山口県土木建築部河川課提供資料 |
| 025 | 下流側に向いて設置されている階段 | 写真 | 6-13 国土技術政策総合研究所 |
| 025 | 護岸部にある階段 | 写真 | 6-14 国土技術政策総合研究所 |
| 025 | 階段部平面図 | 図 | 6-15 現地において簡易測量した数値を基に作成 |
| 025 | 道路側からみた一の坂川 | 写真 | 6-16 国土技術政策総合研究所 |
| 025 | 乱舞するゲンジボタル | 写真 | 6-17 山口市提供 |

| 太田川・基町護岸 | | | | |
|--------------|----------------------|----|------|---|
| 頁 | 写真・図 | | 出典番号 | 出典など |
| 026 | 基町護岸 | 写真 | 7-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 026 | 位置図 | 図 | 7-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 027 | 平面図 | 図 | 7-3 | 『水辺の景観設計』より転載 |
| 027 | 空鞆橋・上流部・標準断面図A-A | 図 | 7-4 | 『水辺の景観設計』より転載 |
| 027 | 空鞆橋・下流部・標準断面図B-B | 図 | 7-5 | 『水辺の景観設計』より転載 |
| 027 | 空鞆橋 上流部 | 写真 | 7-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 028 | 空鞆橋・上流部・平面図 | 図 | 7-7 | 北村眞一提供資料(計画・設計当時の図面)を清書 |
| 028 | 倒れる前のポブラ | 写真 | 7-8 | (株)地域開発研究所所蔵 |
| 028 | テラスを持つ階段 | 写真 | 7-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 028 | 空鞆橋上流部の中央部・階段平面・断面図 | 図 | 7-10 | 北村眞一提供資料(計画・設計当時の図面)を清書 |
| 028 | 空鞆橋・上流部・低水護岸詳細断面図 | 図 | 7-11 | 『水辺の景観設計』より転載 |
| 029 | 空鞆橋・下流部・平面図 | 図 | 7-12 | 北村眞一提供資料(計画・設計当時の図面)を清書 |
| 029 | 側壁勾配が1:0.3の階段 | 写真 | 7-13 | 国土技術政策総合研究所 |
| 029 | 空鞆橋下流部階段 平面図 | 図 | 7-14 | 北村眞一提供資料(計画・設計当時の図面)を清書 |
| 029 | 階段状の水制(B) | 写真 | 7-15 | 国土技術政策総合研究所 |
| 029 | 空鞆橋下流部水制工(B) 平面図・断面図 | 図 | 7-16 | 北村眞一提供資料(計画・設計当時の図面)を清書 |
| 029 | 丸みのある水制(A) | 写真 | 7-17 | 国土技術政策総合研究所 |
| 029 | 空鞆橋下流部水制工(A) 断面図 | 図 | 7-18 | 『水辺の景観設計』より転載 |
| 029 | エッジライン | 写真 | 7-19 | 国土技術政策総合研究所 |
| 029 | 護岸とテラス部の詳細断面 | 図 | 7-20 | 北村眞一提供資料(計画・設計当時の図面)を清書 |
| 八東川・多自然型川づくり | | | | |
| 頁 | 写真・図 | | 出典番号 | 出典など |
| 030 | 流れを取り戻した八東川の旧河道 | 写真 | 8-1 | 島谷幸宏所蔵 |
| 030 | 位置図 | 図 | 8-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 031 | 全体計画平面図 | 図 | 8-3 | 鳥取県資料(八東川改良工事平面図、平成6年度)を基に加筆 |
| 032 | 主要断面図 | 図 | 8-4 | 鳥取県資料(「八東川多自然型川づくり」鳥取県郡家土木事務所、平成7年)を基に加筆 |
| 032 | 帯工構造図 | 図 | 8-5 | 鳥取県資料(「八東川多自然型川づくり」鳥取県郡家土木事務所、平成7年)を基に加筆 |
| 032 | 帯工の状況(遠景) | 写真 | 8-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 032 | 帯工の状況(近景) | 写真 | 8-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 032 | 水際部の空石積工と柳枝工 | 写真 | 8-8 | 島谷幸宏所蔵 |
| 032 | 水際部の空石積工と柳枝工 | 写真 | 8-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 033 | 分派部の状況(左上が上流側からの全景) | 写真 | 8-10 | 島谷幸宏所蔵 |
| 033 | 復活前の旧河道 | 写真 | 8-11 | 「まちと水辺に豊かな自然を」財団法人リバーフロント整備センター、平成8(1996)年 |
| 033 | 復活なった旧河道 | 写真 | 8-12 | 「まちと水辺に豊かな自然を」財団法人リバーフロント整備センター、平成8(1996)年 |
| 033 | 分派部の考え方(平面図) | 図 | 8-13 | 鳥取県資料(「多自然型川づくりとサロン方式による全住民参加の川づくり手法について」美甘頼昭)を基に加筆 |
| 033 | 分派部の考え方(A-A断面図) | 図 | 8-14 | 鳥取県資料(「多自然型川づくりとサロン方式による全住民参加の川づくり手法について」美甘頼昭)を基に加筆 |
| 033 | 水理実験の様子 | 写真 | 8-15 | 「まちと水辺に豊かな自然を」財団法人リバーフロント整備センター、平成8(1996)年 |

| 津和野川・景観整備 | | | |
|-----------------|--------------------------|------|---|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 034 | 伝統行事の舞台となった水辺空間 | 写真 | 9-1 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 034 | 位置図 | 図 | 9-2 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 035 | 全体計画平面図 | 図 | 9-3 (株)プランニングネットワーク |
| 035 | 橋詰め広場部断面図(C-C) | 図 | 9-4 GROUNDSCAPE篠原修の風景デザイン、東京大学景観研究室編著 平成18(2006)年 |
| 036 | 橋詰広場 | 写真 | 9-5 国土技術政策総合研究所 |
| 036 | 橋詰広場から水辺への階段 | 写真 | 9-6 国土技術政策総合研究所 |
| 036 | 橋詰広場平面図 | 図 | 9-7 (株)プランニングネットワーク |
| 036 | 庭園広場 | 写真 | 9-8 「津和野川ふるさとの川整備事業パンフレット」島根県・津和野町、平成8(1996)年 |
| 036 | 落差工 | 写真 | 9-9 国土技術政策総合研究所 |
| 036 | 落差工平面図 | 図 | 9-10 「シビックデザイン～自然・都市・人々の暮らし」建設省中部地方建設局シビックデザイン検討委員会編、平成8(1996)年 |
| 037 | 護岸の深目地仕上げ | 写真 | 9-11 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 037 | 下流区間のパラベット | 写真 | 9-12 国土技術政策総合研究所 |
| 037 | 上流区間のパラベット | 写真 | 9-13 国土技術政策総合研究所 |
| 037 | 落差工の施工状況 | 写真 | 9-14 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 037 | 低水護岸部の状況 | 写真 | 9-15 国土技術政策総合研究所 |
| 037 | 夏祭りの準備中の様子 | 写真 | 9-16 津和野町提供 |
| 阿武隈川・渡利地区水辺空間整備 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 038 | 対岸から見た渡利地区全景 | 写真 | 10-1 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 038 | 大ブタクサ等に覆われた整備前の状況 | 写真 | 10-2 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 038 | 位置図 | 図 | 10-3 福島市都市計画図を基に加筆 |
| 039 | 基本的な盤高設定 | 図 | 10-4 (株)プランニングネットワーク |
| 039 | 移行帯による盤の配置 | 図 | 10-5 (株)プランニングネットワーク |
| 039 | 粗造成段階における中位盤と高位盤の関係 | 写真 | 10-6 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 039 | 粗造成段階における低位盤の状況 | 写真 | 10-7 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 視覚的稜線による空間認識 | 図 | 10-8 (株)プランニングネットワーク |
| 040 | 視覚的稜線による空間区分 | 写真 | 10-9 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 視覚的稜線による不可視領域の形成 | 写真 | 10-10 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 高水敷上に樹木を移植 | 写真 | 10-11 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 樹木の重なりによる遠近感 | 写真 | 10-12 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 移植後安定期に入った樹木 | 写真 | 10-13 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 最下流端のワンド空間 | 写真 | 10-14 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 再整備後の水際線 | 写真 | 10-15 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 視線を受けとめる樹木配置 | 写真 | 10-16 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 広い空間を引き締める樹木 | 写真 | 10-17 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 040 | 活動の拠り所となる樹木 | 写真 | 10-18 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 041 | 自然的な変化を生み出すための断面形の連続的な変化 | 図 | 10-19 (株)プランニングネットワーク |
| 041 | 造成コンター図 | 図 | 10-20 (株)プランニングネットワーク |
| 041 | 中小洪水による側方洗掘 | 写真 | 10-21 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 041 | 見直しによる樹木周りの盤高調整と補強 | 写真 | 10-22 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 041 | 模型による空間確認 | 写真 | 10-23 (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 041 | 見直しによる再整備 | 写真 | 10-24 (株)プランニングネットワーク所蔵 |

| 子吉川・二十六木地区多自然型川づくり | | | |
|--------------------|-----------------------------|----------|---|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 042 | 二十六木地区水制工群全景 | 写真 11-1 | 「土木学会デザイン賞作品選集2005」社団法人土木学会景観・デザイン委員会 平成18(2006)年 |
| 042 | 位置図 | 図 11-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 043 | 工事範囲とその概要 | 図 11-3 | 子吉川二十六地区災害関連緊急事業パンフレット 建設省秋田工事事務所 |
| 043 | 二次元流況解析による水制設置効果の予測シミュレーション | 図 11-4 | 「平成6年度子吉川二十六地区河道計画検討補足業務報告書」日本建設コンサルタント 平成6(1994)年 p32・p38を基に加筆 |
| 044 | 洪水による河床変動 | 図 11-5 | 「平成7年度二十六地区水制工調査報告書」日本建設コンサルタント 平成8(1996)年 p3-37を基に加筆 |
| 044 | 伝統漁法による漁労風景 | 写真 11-6 | 「土木学会デザイン賞応募説明資料」 |
| 044 | 施工後3ヶ月経過(1995年6月) | 写真 11-7 | 「土木学会デザイン賞応募説明資料」 |
| 044 | 施工後1年6ヶ月経過(1996年9月) | 写真 11-8 | 「土木学会デザイン賞応募説明資料」 |
| 045 | 水制工構造図(平面・断面) | 図 11-9 | 子吉川二十六地区災害関連緊急事業パンフレット 建設省秋田工事事務所 |
| 045 | 護岸部標準断面図 | 図 11-10 | 子吉川二十六地区災害関連緊急事業パンフレット 建設省秋田工事事務所 |
| 045 | 根固めブロックの施工状況 | 写真 11-11 | 「土木学会デザイン賞応募説明資料」 |
| 和泉川・東山の水辺と関ヶ原の水辺 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 046 | 東山の水辺全景 | 写真 12-1 | 「土木学会デザイン賞作品選集2005」社団法人土木学会景観・デザイン委員会 平成18(2006)年 |
| 046 | 位置図 | 図 12-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 047 | 全体計画平面図(東山の水辺) | 図 12-3 | 横浜市下水道局河川設計課パンフレット「和泉川流域ワークショップ」平成元(1989)年 |
| 047 | 断面図(東山の水辺) | 図 12-4 | 横浜市下水道局河川設計課パンフレット「和泉川流域ワークショップ」平成元(1989)年 |
| 047 | 整備前の状況 | 写真 12-5 | 吉村伸一所蔵 |
| 047 | 東山の水辺 | 写真 12-6 | 吉村伸一所蔵 |
| 048 | 全体計画平面図(関ヶ原の水辺) | 図 12-7 | 横浜市下水道局河川設計課パンフレット「和泉川流域ワークショップ」平成元(1989)年 |
| 048 | 断面図(関ヶ原の水辺) | 図 12-8 | 横浜市下水道局河川設計課パンフレット「和泉川流域ワークショップ」平成元(1989)年 |
| 048 | 整備前の状況 | 写真 12-9 | 吉村伸一所蔵 |
| 048 | 関ヶ原の水辺 | 写真 12-10 | 吉村伸一所蔵 |
| 049 | 設計図(断面) | 図 12-11 | 「和泉川環境整備計画(案)」横浜市、昭和63(1988)年 を基に加筆 |
| 049 | 設計図(平面) | 図 12-12 | 「和泉川環境整備計画(案)」横浜市、昭和63(1988)年 を基に加筆 |
| 049 | デザインWSの状況 | 写真 12-13 | 吉村伸一所蔵 |
| 049 | 完成した橋詰部の整備空間 | 写真 12-14 | 吉村伸一所蔵 |
| 049 | 子供たちの川遊びの場となっている和泉川 | 写真 12-15 | 吉村伸一所蔵 |

| 木曾川・船頭平閘門 | | | | |
|-----------|------------------------|----|-------|---------------------------------|
| 頁 | 写真・図 | | 出典番号 | 出典など |
| 050 | 船頭平閘門の全景 | 写真 | 13-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 050 | 船頭平閘門 概略図 | 図 | 13-2 | 『船頭平閘門』（パンフレット）より転載 |
| 050 | 位置図 | 図 | 13-3 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 051 | 閘門設置位置の検討箇所 | 図 | 13-4 | 参謀本部陸地測量部より作成 |
| 051 | 船頭平閘門の位置と背割堤の関係 | 図 | 13-5 | 国土地理院地形図（旧版地形図）より作成 |
| 051 | 船頭平閘門で使用されている円弧駆動ギア | 写真 | 13-6 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 051 | 一般的な合掌戸の閉開に用いられる直線駆動ギア | 写真 | 13-7 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 051 | 船頭平閘門の合掌戸 | 写真 | 13-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 051 | 明治35年当時の門の整備箇所 | 図 | 13-9 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 051 | 明治42年の増設後の門の整備箇所 | 図 | 13-10 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 052 | 平面図 | 図 | 13-11 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 052 | 断面図 | 図 | 13-12 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 053 | 断面図 | 図 | 13-13 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 053 | 閘門の石積み | 図 | 13-14 | 『船頭平閘門改築記念誌』より転載 |
| 053 | 閘室と閘柱との取り付け部分 | 写真 | 13-15 | 国土技術政策総合研究所 |
| 053 | 花崗岩による整備 | 写真 | 13-16 | 国土技術政策総合研究所 |
| 053 | 閘室の満水状況と補修による鉄平石張 | 写真 | 13-17 | 国土技術政策総合研究所 |
| 053 | 木曾川の閘門 閘室側からの眺め | 写真 | 13-18 | 国土技術政策総合研究所 |
| 053 | 木曾川の閘門 木曾川側からの眺め | 写真 | 13-19 | 国土技術政策総合研究所 |
| 053 | 以前の門扉を利用したモニュメント | 写真 | 13-20 | 国土技術政策総合研究所 |
| 荒川・岩淵水門 | | | | |
| 頁 | 写真・図 | | 出典番号 | 出典など |
| 054 | 昭和3年当時の水門全景 | 写真 | 14-1 | 『荒川 歴史を語る荒川写真集 大正10年～昭和20年』より転載 |
| 054 | 昭和3年当時の水門全景 | 写真 | 14-2 | 『荒川 歴史を語る荒川写真集 大正10年～昭和20年』より転載 |
| 054 | 昭和35年に改築された岩淵水門 | 写真 | 14-3 | 国土技術政策総合研究所 |
| 054 | 位置図 | 図 | 14-4 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 055 | 建設当時の水門全景 | 写真 | 14-5 | 『都市を往く荒川 荒川下流工事事務所75年史』より転載 |
| 055 | 岩淵水門の配置計画図 | 図 | 14-6 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料 |
| 055 | 建設当時の写真より | 写真 | 14-7 | 『荒川 歴史を語る荒川写真集 大正10年～昭和20年』より転載 |
| 055 | 岩淵水門正面図 | 図 | 14-8 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料より作成 |
| 055 | 岩淵水門と堤防の取り付け | 図 | 14-9 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料 |
| 056 | 岩淵水門正面図 | 図 | 14-10 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料 |
| 056 | 岩淵水門平面図 | 図 | 14-11 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料 |
| 057 | 岩淵水門縦断図 | 図 | 14-12 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料 |
| 057 | 新旧の岩淵水門 | 写真 | 14-13 | 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所提供資料 |
| 057 | 昭和58年に新たに完成した新岩淵水門 | 写真 | 14-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 057 | コンクリートでできた堰柱 | 写真 | 14-15 | 国土技術政策総合研究所 |

| 旧北上川分疏施設群(脇谷水門・鴉波水門) | | | | |
|----------------------|--------------------------------|------|-------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など | |
| 058 | 旧北上川分疏部全景 | 写真 | 15-1 | 「旧北上川分疏施設改築事業計画概要」国土交通省東北地方整備局北上川下流工事事務所、平成11(1999)年 |
| 058 | 位置図 | 図 | 15-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 059 | 全体計画平面図 | | 15-3 | 東北地方整備局北上川河川事務所資料を基に加筆 |
| 059 | 脇谷洗堰(旧施設) | 写真 | 15-4 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 059 | 鴉波洗堰(旧施設) | 写真 | 15-5 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 059 | 堤防部断面図 | 図 | 15-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 060 | 脇谷水門全景 | 写真 | 15-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 060 | 脇谷水門堰柱部 | 写真 | 15-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 060 | 脇谷水門操作室 | 写真 | 15-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 060 | 脇谷水門設計図(平面図(上)・断面図(下)・正面図(左)) | 図 | 15-10 | 東北地方整備局北上川河川事務所資料 |
| 061 | 鴉波水門下流側 | 写真 | 15-11 | 国土技術政策総合研究所 |
| 061 | 鴉波水門上流側 | 写真 | 15-12 | 国土技術政策総合研究所 |
| 061 | 鴉波水門設計図(平面図(上)・断面図(下)・正面図(左上)) | 図 | 15-13 | 東北地方整備局北上川河川事務所資料 |
| 嘉瀬川・石井樋 | | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など | |
| 062 | 石井樋全景 | 写真 | 16-1 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 062 | 石井樋 | 写真 | 16-2 | 国土技術政策総合研究所 |
| 062 | 位置図 | 図 | 16-3 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 063 | 石井樋整備図面 | 図 | 16-4 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 063 | 疏導要書に書かれた石井樋 | 図 | 16-5 | 「疏導要書」(佐賀県立図書館蔵) |
| 063 | 大井手堰 | 写真 | 16-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 063 | 天狗の鼻と導水路 | 写真 | 16-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 064 | 天狗の鼻と象の鼻 | 写真 | 16-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 064 | 象の鼻から天狗の鼻をみる | 写真 | 16-9 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 064 | 天狗の鼻の発掘状況 | 写真 | 16-10 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 064 | 象の鼻と修復状況 | 写真 | 16-11 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 064 | 水理実験状況 | 写真 | 16-12 | ㈱地域開発研究所所蔵 |
| 064 | 天狗の鼻・象の鼻周辺の断面図 | 図 | 16-13 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 065 | 大井手堰横断面図 | 図 | 16-14 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 065 | 大井手堰縦断面図 | 図 | 16-15 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 065 | 堰下流に設けられた粗朶沈床 | 写真 | 16-16 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 065 | 古い大井手堰 | 写真 | 16-17 | 国土技術政策総合研究所 |
| 065 | 大井手堰平面図 | 図 | 16-18 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 065 | 昭和30年頃の大井手堰 | 写真 | 16-19 | 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所提供資料 |
| 065 | 起伏ゲートの機械室 | 写真 | 16-20 | 国土技術政策総合研究所 |

| 筑後川・山田堰 | | | |
|----------|----------------------------------|----------|---|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 066 | 筑後川本川にある山田堰の全景 | 写真 17-1 | (株)地域開発研究所所蔵 |
| 066 | 位置図 | 図 17-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 067 | 宝暦7年(1757)の上座、下座両郡大川絵図における山田堰と堀川 | 図 17-3 | 『床島堰開発史展図録』より転載 |
| 067 | 明治34年(1901)の復旧工事時の図面 | 図 17-4 | 『筑後川農業水利誌』より転載 |
| 067 | 山田堰と千年分水路の位置 | 図 17-5 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 067 | 筑後川中流部の河道の整備目標流量図 | 図 17-6 | 国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所資料(一部加筆) |
| 068 | 現況平面図 | 図 17-7 | 福岡県朝倉農林事務所資料 |
| 068 | 堀川用水の取水口 | 写真 17-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 068 | 堰堤近景 | 写真 17-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 068 | 現況平面図a-aの断面図 | 図 17-10 | 福岡県朝倉農林事務所資料 |
| 068 | 現況平面図b-bの断面図 | 図 17-11 | 福岡県朝倉農林事務所資料 |
| 068 | 現況平面図c-cの断面図 | 図 17-12 | 福岡県朝倉農林事務所資料 |
| 069 | 筑後川山田堰の周辺図 | 図 17-13 | 国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所資料 |
| 069 | 上流からの俯瞰景 | 写真 17-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 069 | 船通しを通過する船 | 写真 17-15 | 『筑後川大百科』より転載 |
| 隅田川・隅田公園 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 070 | 開園当時の隅田公園 | 写真 18-1 | 隅田公園開園記念絵葉書(東京市、1931年) |
| 070 | 開園当時の隅田公園と言問橋 | 写真 18-2 | 土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブ(『土木建築画報』第7巻5号、1931年)より転載 |
| 070 | 位置図 | 図 18-3 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 071 | 開園当時の平面図 | 図 18-4 | 隅田公園開園記念絵葉書(東京市、1931年) |
| 071 | 埋め立て前の平面図 | 図 18-5 | 東京農業大学地域環境科学部造園科学科提供資料に加筆 |
| 071 | 隅田公園 | 写真 18-6 | 隅田公園開園記念絵葉書(東京市、1931年) |
| 072 | 隅田公園計画断面 | 図 18-7 | 東京農業大学地域環境科学部造園科学科提供資料に加筆 |
| 072 | 明治年代の三囲神社周辺の風景 | 写真 18-8 | 『古写真でみる江戸から東京へ』p225より転載 |
| 072 | 昭和20年代の隅田公園 | 写真 18-9 | 『ビジュアルブック江戸東京5 水の東京』p17より転載 |
| 072 | 台東区側の園路 | 写真 18-10 | 土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブ(「震災復興公園関係写真」)より転載 |
| 072 | 山谷堀付近の船だまり | 写真 18-11 | 土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブ(「震災復興公園関係写真」)より転載 |
| 072 | 台東区側の運動施設 | 写真 18-12 | 土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブ(「震災復興公園関係写真」)より転載 |
| 073 | 当時の計画断面と現在の断面の重ね図 | 図 18-13 | 東京農業大学地域環境科学部造園科学科提供資料に加筆 |
| 073 | 建設当時の隅田公園 | 写真 18-14 | 土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブ(「震災復興公園関係写真」)より転載 |
| 073 | 現在の隅田公園 | 写真 18-15 | 国土技術政策総合研究所 |
| 073 | 現在の隅田公園 | 写真 18-16 | 国土技術政策総合研究所 |

| 牛伏川・フランス式階段工 | | | |
|-----------------|---|----------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 074 | 階段工の全景 | 写真 19-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 074 | 曲線で処理された袖壁部と落差部 | 写真 19-2 | 国土技術政策総合研究所 |
| 074 | 階段工上部 | 写真 19-3 | 国土技術政策総合研究所 |
| 074 | 位置図 | 図 19-4 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 075 | 設計当初の地形と計画断面 | 図 19-5 | 『牛伏川砂防工事沿革史』より転載 |
| 075 | 下流から上流を眺める | 写真 19-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 075 | 工事中のフランス式階段工 | 写真 19-7 | 『牛伏川砂防工事沿革史』より転載 |
| 075 | 池田技師が手紙で「仏国ニ於ケル一例」として示したフランスの堰堤の断面図 | 図 19-8 | 『大正6年 砂防工事関係書類 土木課 全』 |
| 076 | フランス式階段工の位置図 | 図 19-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 076 | 平面図 | 図 19-10 | 『松本砂防のあゆみ - 信濃川上流直轄砂防百年史』より転載 |
| 076 | 縦断面 | 図 19-11 | 『松本砂防のあゆみ - 信濃川上流直轄砂防百年史』より転載 |
| 076 | 横断面 | 図 19-12 | 『松本砂防のあゆみ - 信濃川上流直轄砂防百年史』より転載 |
| 077 | 上流端の内務省1号石堰堤すり付け部は3段の落差で処理されている。 | 写真 19-13 | 国土技術政策総合研究所 |
| 077 | 床固の間には10cm程度の小段が2～3段程度（最下流分は8段）あり、水の流れにリズム感を与えている。 | 写真 19-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 077 | 護岸部は、8分の法勾配となっている。なお、天端は切天端である。 | 写真 19-15 | 国土技術政策総合研究所 |
| 077 | 昭和61年より始まった砂防環境整備事業では、フランス階段工上流部の砂防施設も巻天端で整備するなど、下流のフランス階段工を意識したデザインとなっている。 | 写真 19-16 | 国土技術政策総合研究所 |
| 077 | 設計当時の図面にみる水路部分の設計図 | 図 19-17 | 『大正6年 砂防工事関係書類 土木課 全』 |
| 木曾川水系・羽根谷砂防第一堰堤 | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 078 | 羽根谷砂防堰堤（第一堰堤）の全景 | 写真 20-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 078 | 落水部分 | 写真 20-2 | 国土技術政策総合研究所 |
| 078 | 位置図 | 図 20-3 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 079 | 平面図 | 図 20-4 | 『岐阜県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』より転載（一部現地での簡易測量結果を加筆） |
| 079 | 奥に見える石碑には明治20年4月1日着工と刻まれている。 | 写真 20-5 | 国土技術政策総合研究所 |
| 079 | 袖の天端は水通しに向かって緩やかな勾配がある。 | 写真 20-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 079 | 本体よりも50cm程度内側に引き込んだ落水部分。 | 写真 20-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 079 | 水通し部分は、自然石を割って利用している。 | 写真 20-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 079 | 断面図 | 図 20-9 | 『岐阜県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』より転載（一部現地での簡易測量結果を加筆） |

| 雲原砂防施設群 | | | |
|-------------|----------------------------|----------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 080 | 雲原川の床固工 | 写真 21-1 | 小川紀一郎所蔵 |
| 080 | 砂防施設位置図 | 図 21-2 | 「雲原の砂防」京都府福知山土木事務所 平成16(2004)年 |
| 080 | リズムカルな落水と流水の表情を見せる農村の中の雲原川 | 写真 21-3 | 国土技術政策総合研究所 |
| 081 | 設計平面図(上谷川:昭和14年度施工) | 図 21-4 | 京都府中丹西土木事務所資料 を基に加筆 |
| 081 | 設計縦断面図(上谷川:昭和14年度施工) | 図 21-5 | 京都府中丹西土木事務所資料 を基に加筆 |
| 081 | 床固工竣工時写真(三岳川:昭和10年頃) | 写真 21-6 | 京都府中丹西土木事務所資料 |
| 081 | 全体計画平面図 | 図 21-7 | 「赤木正雄の足跡」矢野義男 |
| 082 | 床固工のタイプ別施工時期と施工形状 | 図 21-8 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 082 | 上谷・入住谷谷川タイプ一般図 | 図 21-9 | 京都府中丹西土木事務所資料 |
| 082 | 三岳川白石タイプ | 写真 21-10 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 083 | 三岳川黒石タイプ | 写真 21-11 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 083 | 雲原川標準タイプ | 写真 21-12 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 083 | 上三岳川砂防堰堤 | 写真 21-13 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 083 | 下三岳川タイプ | 写真 21-14 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 083 | 雲原川布張タイプ | 写真 21-15 | 「雲原川 砂防設備修繕業務委託報告書」京都府中丹西土木事務所 平成17(2005)年 |
| 布引ダム(五本松堰堤) | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 084 | 布引ダム全景 | 写真 22-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 084 | 位置図 | 図 22-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 085 | 堰堤平面図 | 図 22-3 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 |
| 085 | 取水塔部詳細図 | 図 22-4 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 |
| 085 | 取水塔部のデザイン | 写真 22-5 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 086 | 堰堤標準断面図 | 図 22-6 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 を基に加筆 |
| 086 | 堤頂部のデザイン | 写真 22-7 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 087 | 自然の岩盤を利用した余水路流出口 | 写真 22-8 | 池田大樹所蔵 |
| 087 | 溢流堤 | 写真 22-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 087 | 雌滝の滝つぼの取水施設 | 写真 22-10 | 池田大樹所蔵 |
| 087 | 貯水池取水システム図 | 図 22-11 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 を基に加筆 |
| 立ヶ畑ダム(烏原堰堤) | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 088 | 立ヶ畑ダム全景 | 写真 23-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 088 | 建設当時の写真 | 写真 23-2 | 「神戸市水道70年史」神戸市水道局 昭和48(1973)年 |
| 088 | 位置図 | 図 23-3 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 089 | 堰堤平面図 | 図 23-4 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 |
| 089 | 余水吐きのデザイン | 写真 23-5 | 国土技術政策総合研究所 |
| 089 | 余水吐きの詳細図(上流側) | 図 23-6 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 |
| 089 | 余水吐きの詳細図(下流側) | 図 23-7 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 |
| 090 | 取水塔覆屋 | 写真 23-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 090 | 堤体横方向からの眺め | 写真 23-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 090 | 取水塔 | 写真 23-10 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 090 | 堰堤標準断面図 | 図 23-11 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 を基に加筆 |
| 091 | 放水路櫓台 | 写真 23-12 | 国土技術政策総合研究所 |
| 091 | 分水堰堤覆屋 | 写真 23-13 | 国土技術政策総合研究所 |
| 091 | 締切堰堤(断流堤) | 写真 23-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 091 | 上流施設群配置図 | 図 23-15 | 「中島工学博士記念 日本水道史」 昭和2(1927)年 を基に加筆 |
| 091 | 貯水池の護岸 | 写真 23-16 | 国土技術政策総合研究所 |

| 小牧ダム | | | |
|------|--------------------|----------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 092 | 小牧ダム全景 | 写真 24-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 092 | 位置図 | 図 24-2 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 093 | 小牧ダム平面図 | 図 24-3 | 「小牧ダム発電工事報告」石井頼一郎 土木学会誌第18巻4号、昭和7（1932）年 |
| 094 | 上流側正面図 | 図 24-4 | 「小牧ダム発電工事報告」石井頼一郎 土木学会誌第18巻4号、昭和7（1932）年 を基に加筆 |
| 094 | 袖堤部断面図 | 図 24-5 | 「小牧ダム発電工事報告」石井頼一郎 土木学会誌第18巻4号、昭和7（1932）年 を基に加筆 |
| 094 | 越流部断面図 | 図 24-6 | 「小牧ダム発電工事報告」石井頼一郎 土木学会誌第18巻4号、昭和7（1932）年 を基に加筆 |
| 095 | 天端高欄より低く抑えられた巻上げ機器 | 写真 24-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 095 | 越流部詳細断面図 | 図 24-8 | 「小牧ダム発電工事報告」石井頼一郎 土木学会誌第18巻4号、昭和7（1932）年 |
| 095 | 袖堤部の扶壁 | 写真 24-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 095 | 下流面の景観 | 写真 24-10 | 国土技術政策総合研究所 |
| 白水ダム | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 096 | 白水ダム全景 | 写真 25-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 096 | 竜門の滝 | 写真 25-2 | 九重町観光協会ホームページ |
| 096 | 小野安夫 | 写真 25-3 | 「白水ダム物語」岡の里事業実行委員会 平成14年（2002） |
| 096 | 位置図 | 図 25-4 | 国土地理院1/25000地形図を基に加筆 |
| 097 | 堰堤標準断面図 | 図 25-5 | 「富士緒地区事業概要」大分県竹田直入地方振興局耕地課、富士緒井路土地改良区 |
| 097 | 堰堤平面図 | 図 25-6 | 「富士緒地区事業概要」大分県竹田直入地方振興局耕地課、富士緒井路土地改良区 を基に加筆 |
| 097 | 転波の優美な落水表情 | 写真 25-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 097 | 施行状況の写真 | 写真 25-8 | 「白水ダム物語」岡の里事業実行委員会 平成14年（2002） |
| 098 | 右岸側壁部の施工図面 | 図 25-9 | 「白水貯水池ノ事業経過概要」富士緒井路土地改良区所蔵 を基に加筆 |
| 098 | 右岸側壁部の施工状況 | 写真 25-10 | 富士緒井路土地改良区所蔵 |
| 098 | 右岸側壁部の造形 | 写真 25-11 | 国土技術政策総合研究所 |
| 098 | 左岸側壁部の造形 | 写真 25-12 | 国土技術政策総合研究所 |
| 099 | 袖堤天端部のデザイン | 写真 25-13 | （株）プランニングネットワーク所蔵 |
| 099 | 袖堤天端部のデザイン（詳細） | 写真 25-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 099 | 左岸階段部のデザイン | 写真 25-15 | 国土技術政策総合研究所 |
| 099 | 右岸階段部のデザイン | 写真 25-16 | 国土技術政策総合研究所 |
| 099 | 右岸階段部のデザイン（詳細） | 写真 25-17 | 国土技術政策総合研究所 |

| 水門の開閉装置の変化とデザイン | | | |
|-----------------|------------------------------------|----------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 100 | 現在の安積疏水の十六橋水門 | 写真 26-1 | 安積疎水土地改良区提供資料 |
| 100 | 現在の石井閘門 | 写真 26-2 | (株)地域開発研究所所蔵 |
| 100 | 明治15年頃の十六橋水門の写真 | 写真 26-3 | 『堰の設計』より転載 |
| 100 | 明治28年頃の十六橋水門の写真 | 写真 26-4 | 『堰の設計』より転載 |
| 100 | 大正3年頃の十六橋水門の写真 | 写真 26-5 | 『堰の設計』より転載 |
| 100 | 建設当時の石井閘門 | 写真 26-6 | 北上川運河交流館提供資料 |
| 101 | 設計当初の大河津分水路・洗堰の開閉装置 | 図 26-7 | 『信濃川大河津分水誌』より転載 |
| 101 | 大正期の大河津分水路・洗堰の姿 | 写真 26-8 | 『信濃川大河津分水誌』より転載 |
| 101 | 戦後に各門が電動巻き上げ機を持つものとなった大河津分水路・洗堰 | 写真 26-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 101 | 平成に改築された大河津分水路・洗堰の油圧シリンダー式の水門 | 写真 26-10 | 国土技術政策総合研究所 |
| 102 | 大河津分水路自在堰・断面図 | 図 26-11 | 『信濃川大河津分水誌』より転載 |
| 102 | 倒壊後に再整備し昭和6年に完成したストーンゲート(モーター)の立面図 | 図 26-12 | 『河川工学』より転載 |
| 102 | 倒壊前の自在堰 | 写真 26-13 | 『信濃川大河津分水誌』より転載 |
| 102 | 現在の自在堰 | 写真 26-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 102 | 大正13年時の旧岩淵水門 | 写真 26-15 | 『都市を往く荒川 荒川下流工事事務所75年史』より転載 |
| 102 | 現在の旧岩淵水門 | 写真 26-16 | 国土技術政策総合研究所 |
| 103 | 大井手堰 | 写真 26-17 | 国土技術政策総合研究所 |
| 103 | 大井手堰 | 図 26-18 | 『水門工学』p96の図を転載(一部加筆) |
| 103 | 埴科頭首工 | 写真 26-19 | 宮原英治所蔵 |
| 103 | 埴科頭首工 | 図 26-20 | 『水門工学』p222の図を転載(一部加筆) |
| 103 | 堂島川可動堰 | 写真 26-21 | 国土技術政策総合研究所 |
| 103 | 堂島川可動堰 | 図 26-22 | 『鋼鉄ゲート百選』p90の図を転載(一部加筆) |
| 103 | 瀬田川洗堰・バイパスゲート | 写真 26-23 | 国土技術政策総合研究所 |
| 103 | 瀬田川洗堰・バイパスゲート | 図 26-24 | 国土技術政策総合研究所 (水のめぐみ館「アクア琵琶湖」館内に展示された模型を参考に作成) |

| 護岸の端部デザイン | | | | |
|-----------|--|------|-------|---------------------------------------|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など | |
| 104 | 岡山県・旭川・勝山船着場 | 写真 | 27-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 104 | 切天端の場合、天端工がコンクリートのままでであると目立ち、周囲の景観に馴染まない。 | 写真 | 27-2 | 国土技術政策総合研究所 |
| 104 | 天端工のコンクリート部分を若干低く施工し、その上部に土を入れ植栽することによって天端のコンクリートを隠している。 | 写真 | 27-3 | 国土技術政策総合研究所 |
| 104 | 天端を巻天端として天端コンクリートが見えないようにしている。さらに、その上に植物が繁茂し景観的に馴染んでいる。 | 写真 | 27-4 | 国土技術政策総合研究所 |
| 104 | 天端処理の種類 | 図 | 27-5 | 『石垣と石積壁』、『石積の秘法とその解説』を参考に(株)地域開発研究所作成 |
| 105 | 京都府・鴨川 | 写真 | 27-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 105 | 広島県・太田川 | 写真 | 27-7 | 国土技術政策総合研究所 |
| 105 | 秋田県・横手川 | 写真 | 27-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 105 | 大分県・庄手川 | 写真 | 27-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 105 | 広島県・太田川 | 写真 | 27-10 | 国土技術政策総合研究所 |
| 105 | 隅角部の処理方法 | 写真 | 27-11 | 国土技術政策総合研究所 |
| 105 | 隅角部の処理方法 | 図 | 27-11 | 『石垣と石積壁』、『石積の秘法とその解説』を参考に(株)地域開発研究所作成 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-12 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-13 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段図 | 図 | 27-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-15 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-16 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段図 | 図 | 27-17 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-18 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-19 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段図 | 図 | 27-20 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-21 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-22 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段図 | 図 | 27-23 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-24 | (株)プランニングネットワーク所蔵 |
| 106 | 階段図 | 図 | 27-25 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段写真 | 写真 | 27-26 | 国土技術政策総合研究所 |
| 106 | 階段図 | 図 | 27-27 | 国土技術政策総合研究所 |
| 107 | 広島県・太田川 | 写真 | 27-28 | 前田文章所蔵 |
| 107 | 秋田県・横手川 | 写真 | 27-29 | 国土技術政策総合研究所 |
| 107 | 鹿児島県・甲突川 | 写真 | 27-30 | 国土技術政策総合研究所 |
| 107 | 階段図 | 図 | 27-31 | 国土技術政策総合研究所 |

| 伝統治水に学ぶしなやかなデザイン | | | |
|------------------|--------------------|----------|--|
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 108 | 長良川（岐阜市）の畳堤 | 写真 28-1 | 国土技術政策総合研究所 |
| 108 | 長良川畳堤断面図 | 図 28-2 | 「木曾三川の治水史を語る」建設省中部地方整備局木曾川上流工事事務所、昭和44（1969）年 |
| 108 | 揖保川（龍野市）の畳堤防 | 写真 28-3 | 国土技術政策総合研究所 |
| 108 | 水防訓練の様子 | 写真 28-4 | 「畳堤」国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所、平成16（2004）年 |
| 109 | 荒川沿いに広がる水防林と霞堤 | 写真 28-5 | 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所提供資料 |
| 109 | 水防林の中に残る古い霞堤 | 写真 28-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 109 | 水防林の中に残る古い霞堤の実測断面図 | 図 28-7 | 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所提供資料 |
| 109 | 霞堤の開口部 | 写真 28-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 109 | 霞堤に沿って分布する水防林 | 写真 28-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 110 | 空から眺めた輪中堤 | 写真 28-10 | 「写真集空から見る木曾三川下流」建設省木曾川下流工事事務所、平成7（1995）年 |
| 110 | 輪中堤の切割り | 写真 28-11 | 国土技術政策総合研究所 |
| 110 | 強首輪中堤 | 写真 28-12 | 国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所提供資料 |
| 110 | 水屋 | 写真 28-13 | 国土技術政策総合研究所 |
| 110 | 水屋に見られる洪水対応の知恵 | 写真 28-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 111 | 四万十川の半家沈下橋（潜橋） | 写真 28-15 | 「四万十川全沈下橋一覧」四万十川ポータルサイト、四万十かざぐるま |
| 111 | 円山川の流れ橋 | 写真 28-16 | （株）プランニングネットワーク所蔵 |
| 111 | 京都鞍馬貴船川の川床 | 写真 28-17 | （株）プランニングネットワーク所蔵 |
| 111 | 京都鴨川川沿いの納涼床 | 写真 28-18 | （株）プランニングネットワーク所蔵 |
| 流れのデザイン | | | |
| 頁 | 写真・図 | 出典番号 | 出典など |
| 112 | 利用形態と流速の関係 | 図 29-1 | 「川の親水プランとデザイン」財団法人リバーフロント整備センター、平成7（1995）年 p75 |
| 112 | 流れの表情と流速 | 写真 29-2 | 「河川風景デザイン」島谷幸宏編著、平成6（1994）年 p72 |
| 112 | 流れのイメージと流速の関係 | 図 29-3 | 「河川風景デザイン」島谷幸宏編著、平成6（1994）年 p71 |
| 112 | 倉敷川（倉敷） | 写真 29-4 | 国土技術政策総合研究所 |
| 112 | 倉敷川断面イメージ | 図 29-5 | 「生きている水路」渡辺一二、昭和59（1984）年 p71を基に、河川・道路部分実測の上作成 |
| 112 | 藍場川（萩） | 写真 29-6 | 国土技術政策総合研究所 |
| 112 | 藍場川断面イメージ | 図 29-7 | 「生きている水路」渡辺一二、昭和59（1984）年 p86を基に、河川・道路部分実測の上作成 |
| 113 | 京都・琵琶湖疎水 | 写真 29-8 | 国土技術政策総合研究所 |
| 113 | 京都・琵琶湖疎水断面イメージ | 図 29-9 | 国土技術政策総合研究所 |
| 113 | 高瀬川 | 写真 29-10 | 国土技術政策総合研究所 |
| 113 | 高瀬川断面イメージ | 図 29-11 | 「生きている水路」渡辺一二、昭和59（1984）年 p52を基に、河川・道路部分実測の上作成 |
| 113 | 明神川（京都社家町） | 写真 29-12 | 国土技術政策総合研究所 |
| 113 | 明神川断面イメージ | 図 29-13 | 国土技術政策総合研究所 |
| 113 | 広瀬川（前橋） | 写真 29-14 | 国土技術政策総合研究所 |
| 113 | 広瀬川断面イメージ | 図 29-15 | 「生きている水路」渡辺一二、昭和59（1984）年 p97を基に、河川・道路部分実測の上作成 |